

熱

河

寶物館

避暑山莊

尊經閣

MG
K928.702.5
6.

黑
田
源
次
編

熱
河

尊 避 寶
經 暑 物
閣 山 館
莊

滿
日
文
化
協
會
刊



3 2285 1506 4

23

序

康徳三年八月予は滿日文化協會の依囑を受けて、三枝朝四郎氏と共に承徳に赴き、熱河寶物館陳設の事務に従事した。本書の編纂も畢竟該事業の延長に過ぎざるもので、三枝氏の手になる多數の寫眞版を以て本書を裝飾し得たのも斯かる理由に據るのである。唯寶物館開設以來空しく歲月を經過し荏苒今日に至つたことに就ては予の責任として慚愧に堪へない所である。

康徳八年五月

黒田源次

目次

熱河寶物館

寫真 熱河寶物館、昌平西園、寶物館と避暑山莊、寶物館全景、寶物館內部……………一四

熱河寶物館(概説)……………一

熱河寶物館陳列品目錄……………三

一 匾額……………三

二 文廟碑記 山莊圖詩及方志……………一〇

三 銅版畫……………六

四 銅器……………三

五 雜器……………三

六 樂器……………三

七 戲衣……………七

八佛	像	一〇六
九佛	塔	一〇四
〇佛	窀	一〇三
二佛	具	一〇二
三佛	經	一〇一
熱河寶物館陳列品圖版			一〇〇

避暑山莊

宮殿 康熙帝御筆扁額·文廟·尊經閣·防備營全圖·登經閣·內部·極正門·大成門·御亭·大成殿·同內部

園林 滄泊·敬誠·玉座·四知書屋·寶鏡齋·福波致爽·雲山勝地·蓮華堂·儲書門

避暑山莊 (概說)

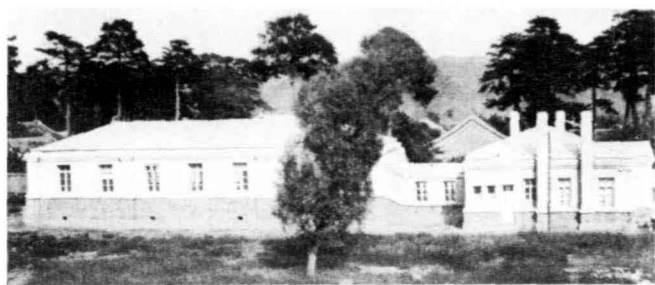
尊經閣

宮殿 康熙帝御筆扁額·文廟·尊經閣·防備營全圖·登經閣·內部·極正門·大成門·御亭·大成殿·同內部

尊經閣 (概說)

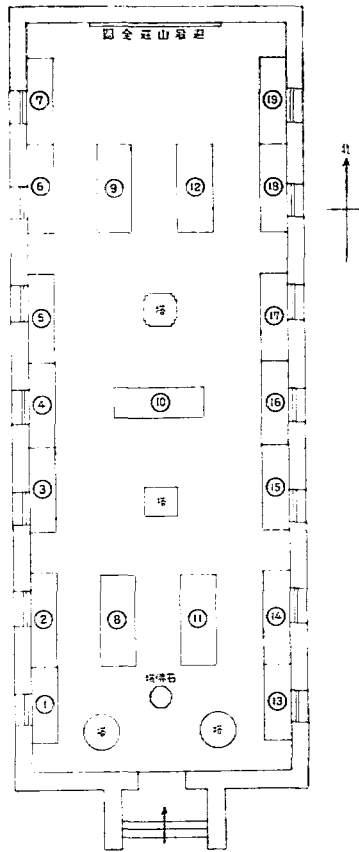
附 熱河尊經閣所藏善本書目

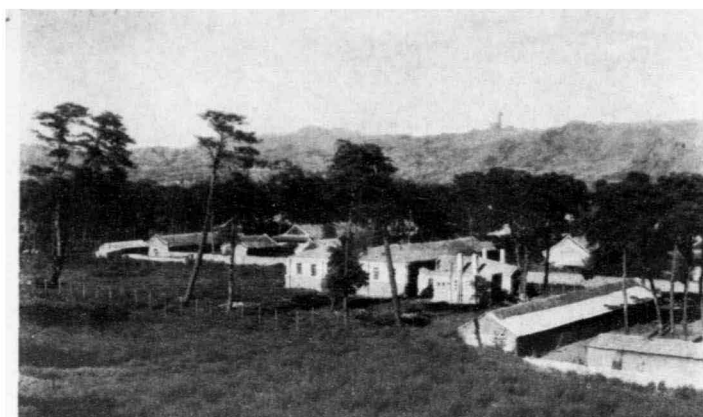
避暑山莊 (概說)	一〇七
避暑山莊	一〇八
尊經閣	一〇九
尊經閣 (概說)	一一〇
附 熱河尊經閣所藏善本書目	一一一



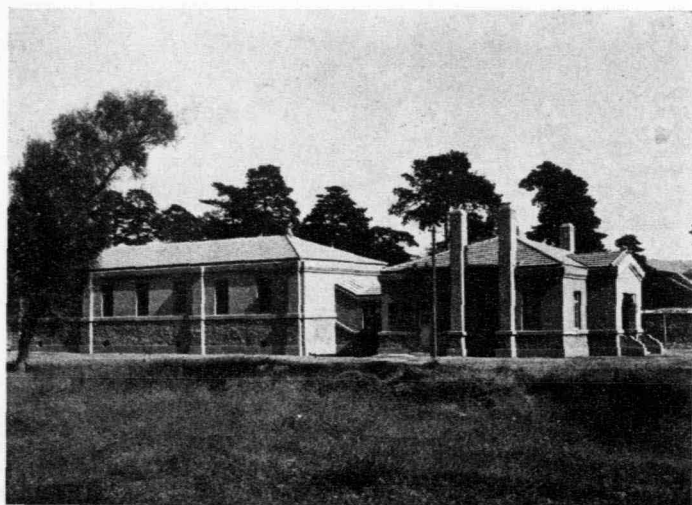
熱河博物館

熱河寶物館平面圖





(七冠を峰鐘響く遠) 莊山暑避と館物寶



景全館物寶



(側南)部内館物資



(側北)部内館物資

熱河寶物館

熱河寶物館は承德の離宮内に在る。即ち麗正門を入つて正面に當る避暑山莊の西裏手に當るところに新築せられた約百坪の混凝土の建物である。陳列室は平家建で東西四間南北十三間餘りの長方形の一室に別圖(陳列室平面圖)の如く陳列棚を排置したものであるが、外に一棟事務室があつて廊下で本館と連絡し出入は凡て此處を通るやうになつてゐる。此設計は康德二年新京の營繕科の手に成つたものである。

茲に陳列せられた品物について逐次簡略に述べてみたいと思ふが、それはざつと次の十三種に分類することができる。一、匾額、二、文廟碑記、三、避暑山莊圖誌、熱河志、承德府志、四、銅板戰圖、五、銅器、六、樂器、七、雜器、八、戲衣、九、佛像、十、佛塔、十一、佛龕、十二、佛

器十三、藏經。

まづ第一類は御筆の匾額や對聯である。之は離宮内の種々の建物に掲げられてあつたもので、康熙乾隆嘉慶三代のものである。陳列せられたのは所藏品の一部に過ぎぬが康熙御筆五點、乾隆御筆十一點、嘉慶帝三點及び其時代の重臣のもの一點計十九點である。これらは皆陳列室の四壁に掲げてあるが、その中で康熙帝の萬里春の大額は花梨地に金銅の字板を嵌めたもので、室の入口の上に掛かり、場内を壓倒するの概がある。又梨花伴月、鍾峯落照の二額は一は緑漆金文、一は白漆金文で、何れも三十六景(繪巻山莊)の一であることは言ふまでもなからう。乾隆御筆ではまづ室の入口の表側に白漆藍字で「趣亭」の小額が掲げられてゐるのが瀟洒たる感を與へる。乾隆帝のものでは此外に金漆で雲龍の彫刻ある匾額が二個、對聯が二個ほどある。金色燦然として頗る豪華なものである。

第二類は尊經閣(繪巻經閣)に珍襲せられてゐた乾隆御筆の熱河文廟碑記と平定臺灣告成文廟碑文とである。元來此二種の碑碣は文廟内に今もなほ儼存してを

るもので、文廟碑記は大成殿前の御碑亭に巨大なる石碑が建つてを、表に此記が刻せられ、背には熱河承德紀事八韻が刻せられてを。所がこゝに陳列せられた碑記は金粟山藏經紙にかゝれた乾隆帝自筆の書冊で、彫刻ある紫檀の夾板をもつて美事なる装幀を施されたものである。之は前述の御碑亭のものゝ原本であると考へられる。次に御筆平定臺灣告成熱河文廟碑文も同様に其碑石は今日大成門内に現在してをるが、こゝに陳列されたのは其原本と目すべき自筆の文章で、やはり宋代の紙に寫され紫檀夾板の冊子である。

第三類銅板圖はやはりもと尊經閣の藏架にあつたもので、乾隆の盛時に出板せられた銅板である。その種類を列記すると一伊犁回部戰圖、二平定兩金川戰圖、三廓爾喀戰圖、四湖南征苗戰圖、五貴州狝苗戰圖、六平定臺灣戰圖、七平定安南戰圖、八圓明園圖の八種である。之等は伊犁回部戰圖が乾隆三十年頃のもので巴里板である外は乾隆五十年以後のもので支那で出來た銅板畫である。(場所が狭いために全部陳列することができない。右のうち最稀觀なものは第一と第八とである。)

第四類に屬する避暑山莊圖誌と熱河志承德府誌の二種は熱河文獻として最重
要なるもので、まづ第一のものは御製避暑山莊圖詩と題し、山莊内の三十六景に題
詠したものである。康熙五十年の御製避暑山莊記を序とし、次に乾隆恭和の詩序を添へ、
卷末に揆叙、勵迂儀等の跋及び鄂爾泰等の跋があり、畫の一部には沈喩恭畫朱圭梅
裕鳳恭鶴の落款があり、極めて精緻な板畫を附したものである。茲には漢文と滿
文との二種が陳列してあり、何れも開花紙當年の最上の用紙に印摺された殿板で
ある。勅修熱河志一百二十卷四十八冊も開花紙の殿板で乾隆四十六年の御製の
序がある。之は尊經閣本である。次に承德府志は熱河志編纂後約五十餘年を経
た道光庚寅に熱河兵備道の海忠が補修したものである。八十六卷。何れも避暑
山莊及び圍場の由來を知る爲には本より、熱河一帯の風土産物古蹟等を研究する
に缺く可らざる著述である。

第五類の銅器十點ももと文廟の什器で、乾隆帝がその珍藏の銅器中より特に十
種を選んで釋奠の用具として進獻せられた由緒あるものである。それは壽洗一、

寶尊一、夔鳳卣一、雷紋觚一、雷紋爵一、蟬紋簋一、蟬夔壺一、叔朕簠一、蟬夔壺一、文王鼎一、であるが、この中には西清古鑑に収録せられたものもある。此等の銅器は、民國以來地方の縉紳によつて嚴重に保管せられ、軍閥者流の篡奪の手を免れ今日あるを得たもので、其篤志も亦記念するに値するものである。

第六類から第八類までのものは何れも宮殿内に使用せられたもので、衣裳類は殆んど全部が演劇用の裳束である。陳列せられたのはその極一少部分に過ぎないが、何れも乾隆時代のもので、風俗資料として珍重に値する。樂器類は取り立てていふほどのものではないが、宮人等の愛用品又は演劇用のものであることは疑ない。遺憾ながら破損甚しく使用に堪ふるものは一もない。それから之は餘談であるが、熱河文廟内には祭器として樂器數百點が完全に保存せられてゐる。これは乾隆四十四年の製作で奉天故宮内のものと好一對と稱すべきものであるが、それは雅樂に屬するものであつて、茲に陳列せられた俗樂の樂器とは全然別種のものである。終りに雜器類の中には宮中で使用せられた胭脂や香水などの類か

ら弓箭楯等並びに燈籠などがある。

第九類以下は皆佛敎特に喇嘛敎關係のもので、多く周圍の佛寺から蒐集せられたものである。佛像は二十一體佛龕中にあるものを除く凡て乾隆期の製作であるがとりたてて、申すほどのものはない。佛龕では入口の正面にある紫檀に七寶と玉を鏤ばめた高さ一丈餘のものは最も人目を驚ろかすに足る魁麗なものである。此外に紫檀や景泰藍七寶や楠木などの各種の違つた形式のものがあり清朝盛期の工藝美術の標本として珍重に値する。佛塔は全部喇嘛敎式のもので殊に場の中央に陳列せられた景泰藍の塔は高さ約八尺金色燦爛たるものである。其他のものも多くは銅鍍金で人目を奪ふものがある。次に佛器のうちには景泰藍(七寶)の須彌山や銅鍍金の七珍八寶や喇嘛敎で使用する噶吧拉人間の頭顱で作つた水鉢や丹布嚕同じく頭蓋で作つた鼓獨鈷淨水壺の類がある。

最後に最重要なるものは滿蒙藏の藏經である。これは普寧寺、珠像寺、布達拉寺、札什倫布、溥仁寺、溥善寺等にあつたもので、殊に豪華な彩色ある夾板に挟まれた滿

文蔵經はもと珠像寺にありしもの、又西藏文蒙古文の甘珠爾が數種あることは本館の大なる誇である。こゝに陳列せられてゐるのは其一部分に過ぎない。

以上陳列品の大體について述べたが、之等は皆承德離宮若くは文廟及び喇嘛寺の舊什であつて、一も他の地方から持つて來たものはない。此點は此陳列館が他の諸博物館と趣を異にする特色であつて、畢竟此陳列館が熱河離宮の附屬物たる所以のものであり、又同時に熱河離宮の歴史を措いては十分此陳列品の意味を解し難い所以である。

抑々熱河の離宮といふのは康熙帝の四十二年（一七〇三年）に建設せられた避暑山莊で、乾隆嘉慶三朝の天子の愛好の地であり、殊に乾隆帝は幼時から此地で成長せられた關係もあつて、殆んど毎年、一年の半を此地で送られたやうな理由で清朝盛期の文華がこゝに蒐積せられたのである。更に都合のいゝことは同治帝が英佛聯合軍から逐はれて一時此地に蒙塵せられた事變があるのを除くと、道光帝以後一度も巡遊のことがなかつたため、其調度一切が乾隆嘉慶の盛時その儘の状態

で、後世まで保存せられて來たことである。此點は北平の宮城や離宮などに大いに趣を異にしてゐる。

八

斯やうな状態で清朝の末に及んだが革命が起ると間もなく即ち民國二年に熊希齡が熱河都統として此地に赴任するや園庭事務所なるものを置き離宮内の貴重品を全部北京に運び去つたのである。即ち書畫であるとか玉器であるとか銅器であるとか陶器であるとかいふものが三年の一月から十月迄の間に陸續として運搬せられたのである。(熱河物品調査冊に民國六年が作製の)離宮内の文津閣にあつた四庫全書(最完好なるが)持ち去られたのも其時で、これは二年の暮に駱駝の背に積まれて全部北平に到着したものであるといふ。此四庫全書は其後久しく北京圖書館に收藏せられ、後に北海圖書館に移され、最近事變の推移とともに再び南京に持ち運ばれてしまつたといふ。

書畫骨董の類は如何なつたかといふと北京故宮内の有名な文華殿及び武英殿に陳列せられ、一は書畫を中心として、一は銅器及び陶器を中心として支那第一等

の美術館が建設せられたのである。

それは北京での事であるが、熱河の離宮では品物が無くなつたから、附近の喇嘛廟のものなどが順次離宮内に運ばれ、之を園庭事務所で管理することとなり、其後都統が代つて姜桂題となり、闕朝璽となり、それらの兵隊が庭園を荒して終つたのである。終りに民國十五年に湯玉麟がこゝの都統になり、十七年に督軍と改まつたが、離宮内の一部を住居とし、殊にその子の湯佐榮といふのが、殆んど洗ひ浚ひに宮殿や喇嘛寺のものを持ち去つたのである。ところが面白いことは、その持ち出した品物が後に奉天に於て發見せられ、今日國立博物館の陳列品の大部分を占むるに至つたことは、偶然ではあるが、不思議な因縁であると言はねばならぬ。

それで今日熱河寶物館に陳列せられたものは、離宮の什物として見ると、文華殿武英殿に抜かれた物の滓の更らに其滓で、奉天博物館にすら及ばないといはざるを得ないが、一方から考へると一の大圖書館と三つの大美術館とを生んだ熱河避暑山莊の調度結構が如何に莊麗を極めたものであつたかゞ之によつて想像し得

と思ふ。

またもう少し違つた角度から見ると、熱河に於ける康熙乾隆の文華の中で最善最美のものは熊希齡や湯玉麟の手を以てしても遂に奪ひ去り得なかつたものであるとも言ひ得る。それは何であるかといふと避暑山莊の建築と庭園とである。更らに八大喇嘛廟を加へると一層確かであるが、それを措いて考へるとしても避暑山莊の正殿にあたる一廓即ち通稱楠木殿(溥敬誠)と、その背後の四知書屋、煙波致爽、雲山勝地の四建築は實に北京紫金城内にも類を見ざる立派なものであり、その林園の雅致は滿洲北支を通じて隨一の名勝であると斷言して憚らないのである。

それについて面白い話がある。昨夏熱河省公署の或人から私は次のやうな質問を受けたことがある。それは承德視察に來る人で此宮殿を見て北京の故宮や萬壽山に比べて如何にも見劣りのする貧弱なものであるといふ人があるし、又中には反つて此方が立派だといふ人もある。果してどれが眞實であらうかといふ

のである。それに對して私は斯ふ言つて答へた。北京の宮殿は實に宏大であり莊麗である。然し方一町にも足らぬ此避暑山莊の正殿のやうな氣品の高い簡素な建物は一個所もないといつていい。全部楠の白木と黒柿とを用ゐ、塗料を少しも用ゐない正殿は康熙帝が憎泊敬誠の匾額を掛けたと言はれてをるやうに、如何にも康熙帝の人格を偲ぶに足る床しい趣がある。更らに其居室であつた四知書屋、雲山勝地、煙波致爽などの清楚高雅は言ふまでもない。

所がこの文華殿、武英殿乃至奉天博物館にも羅致し得なかつた最善最美の工藝品にもまた熊希齡、姜桂題、閻朝璽、湯玉麟などよりも遙かに恐ろしい暴逆の魔手が及びつゝあることである。それは何か。無論人間ではない。人間の力も多少はあるが主として自然の力、風雨の作用である。その破壊力の痛ましい痕跡は離宮や八大喇嘛廟の到る所に見ることができるのである。しかも魔手は年々歳々烈しくなり、殊に近年に至つて著しい模様である。

熱河のやうな美しく、そして歴史的由緒の深い場所は作らうとしても容易

に作られるものではない。既にそれは現状のままで申分なき滿洲國の國立公園である。此意味に於てその自然及び建造物を風雨の暴逆の手から保護するといふことは決して懷古的記念物を保存するといふやうな意味ばかりでなく、現在及び將來に對して十分の利用價値を有つてゐるものである。従つてそれには多小の費用を要するにしても、崩壞に委するに較べてはその入費は極めて僅小なものであると思ふのである。我國でも明治の初年には奈良の興福寺の塔を三十圓とかで民間に拂ひ下げようとしたことがあるさうである。話は少し違ふが維持に困つてゐる有様だけは稍似てゐる點がないではない。要するに此等の記念物を如何なる程度に於て、又如何なる方法で維持して行くかは爲政家の責任であると思ふが、一般民衆も亦之に對する正當なる理會を以て、當局を援助し激勵して行くだけの關心を有たなければならぬと思ふ。熱河寶物館の建設は實に此事業の第一歩に外ならぬのである。

熱河寶物館陳列品目錄

〔本目錄番號は圖版の各寫眞番號と一致す〕

一區 額 四壁

- | | | | |
|---|-----------------|---------|--------------------|
| 一 | 康熙御筆「萬里春」橫匾 | 花梨地鍍金銅字 | 長二六一
寬二五九
厚五 |
| 二 | 康熙御筆「鍾峰落照」橫匾 | 略漆藍文 | 長二〇九
寬二〇〇
厚四 |
| | ○欽定熱河志卷廿七鍾峰落照參看 | | |
| 三 | 康熙御筆「梨花伴月」橫匾 | 綠漆金文 | 長二〇六
寬二〇〇
厚四 |
| | ○欽定熱河志卷廿七梨花伴月參看 | | |
| 四 | 康熙御筆對聯 | 黑漆金字 | 長五一
寬九五
厚四 |
| | 「獻壽千歲外」來朝數月間 | | |

三 康熙御筆對聯

竹地金文

寛長一四二〇 楹

「能解三庚暑」
「還生六月秋」

○欽定熱河志卷三十一觀蓮所參看

六 乾隆御筆「趣亭」横匾

白漆藍字

長三五一〇 楹

○欽定熱河志卷三十九靜含太古山房に見ゆ、又文津閣にも趣亭と稱する

小宇あり、欽定熱河志卷四十一に見ゆ。この横匾その何れのものなり

やを審かにせず。

七 乾隆御筆横匾

金漆雲龍黒文

長四五〇 楹

「亭子臨荷沼。因名曰鏡香。鏡緣沿□喩。香乃荷之常。□主翻夏暫。

喩賓却歲長。誰能齊物理。曰古有蒙莊。

有會一首

庚戌季夏月御筆

○亭子は戒得堂の後廡に在り。欽定熱河志卷三十五戒得堂の條參看。

乾隆御筆橫匾

金漆雲龍景文

長四〇〇
寬二一〇〇
厚

「堂陰半畝方塘鑿。此鏡由來不藉磨。底事座間香撲鼻。知因亭畔籟吹荷。馥辭非蕤沈檀鼎。紅白是鋪錦繡窠。設以花中擬君子。得之豈合戒其多。」

王寅孟秋上游御題

○欽定熱河志卷三十五戒得堂の條下に題鏡香亭 戒得堂後臨臨池荷花

盛開。因名之曰鏡香亭。而系以詩。と題して此詩あり。又御製詩四

集卷九十二に收む。

乾隆御筆掛屏

紫檀邊嵌木字

長四〇〇
寬二六〇〇
厚

「城南香域化人居。古蹟金陵莫如此。石鼎然香超六度。栢檀梵唄辨三車。鈴音替戾飄洪漠。塔影穹隆接碧虛。小坐拈教清蹕返。觀民展義務敷予。」

大報恩寺作 乙酉暮春上澣御筆

○御製詩三集卷四十九に收む。唯四句檀を臺に作り、五句灰を戻に作り、

七句拈を旋に作る。詩は南京に於ける作なり。此類何れの殿楹に掛

りしものなりや審かにせず。

10 乾隆御筆掛屏

紫檀邊嵌玉文

長三九〇
寬二六〇
額

「向南山樹曰臨湖。幾餘坐可虧具區。具區雖遠見不遠。意之到豈到之殊。東西洞庭峙萬仞。洞天奇語多半謬。香水溪實在眼底。越來由此會傾吳。撫景吊古遺清暇。爾云逸興遊飛俱。何來圖近新築葺。成事不說徒慙吾。成事不說徒慙吾。弗此欣夫轉慚夫。」

庚子仲春御題

此詩御製詩四集卷七十に收む。臨湖樹と題せり。只五句を却に作り、十三句慙を慙に作る。且十一句の次に註して左の如く言へり。「此次南巡屢諭該督撫行宮名勝一切照舊勿稍踵事增華而揚魁乃於西贛山程園中點綴數字以圖近觀太湖成事不說撫景祇覺增慙耳」

11 乾隆御筆對聯

黑漆花文金字

長一八〇
寬一〇〇
五額

「赴谷遠因探放之而準」「在山清可會逝者如斯」

二三 乾隆御筆對聯
○北山凌太虛に在りしもの、熱河志卷三十三參照。
金漆雲龍黒文 寛長一八五〇 楳

「祖徳紹稀齡戒垂務廣」 「聖言明要道矩仰從心」

○戒得堂に掲げありしもの、熱河志卷三十五參照。

二三 乾隆御筆對聯
金漆雲龍黒文 寛長一八五〇 楳

「樂壽協郡居徳符仁智」 「清寧昭麗象道體公明」

○掲げありし殿宇明かならざるも前者と同一か。

二四 乾隆御筆對聯
黒漆金文 寛長一〇〇〇 楳

「挂簷新月參三點」 「射角明河映九層」

○永佑寺内舍利塔額を妙蓮湧座といひ、八方に聯あり。之はその西北面

に掲げしもの。熱河志卷七十七參照。

二三 乾隆御筆對聯
黒漆金文 寛長一〇〇〇 楳

「觚稜日上漿承露」 「鈴鐸風廻座散花」

○同上。永佑寺舍利塔にありしもの。

一六 嘉慶御筆「仙苑昭靈」横匾 白漆藍文

長四七〇
寬一八五
額

一七 嘉慶御筆横匾 白漆藍文

長一五〇
寬九〇
額

「塞湖界内外。前渚跨長虹。波影高低印。荷香遠近通。虛延千頃穀。爽挹四林風。彷彿蘇隄景。雙峰挿碧空。

甲子孟秋月之下滄 御題

○此詩仁宗御製詩二集卷六に收め、水心榭と題せり。水心榭は乾隆續添三十六景の一である。詩集には更に註して、茲地虛榭憑流。波光夾鏡。岡巒倚伏。環列於欄檻之間。其前後則遙挹高峰。宛似浙西南高北高之對峙。偶來莅止。恍疑蘇隄烟景。重遇湖心憑眺矣。」とあり。

一八 嘉慶御筆掛屏(堅圓) 白漆藍文

長四九〇
寬一三〇
額

「晃朗西巖夕照明。虛庭靜挹晚風清。波心對々聞鷗浴。林角呦々馴鹿鳴。香送荷塘紅灼爍。影浮松坂翠晶瑩。汀邊小坐觀秋宇。妙繪物形悅性情。

戊辰孟秋月下澣晚坐 御筆

○此詩仁宗御製詩二集卷三十九に見ゆ。題して臨芳墅晚坐といへるを見れば同處に掛りしものなること疑なし。

一九 嘉慶御筆掛屏(墨匾)

白漆 藍文

長四九〇
寬一三〇

尋鹿步梨坡。放舟泛荷沼。波縠疊晚風。靜香淡縈繞。弭棹坐蘭皋。斜陽踰林杪。嵐靄時淺深。明霞繪天表。仙莊超世塵。秋巖四面遶。山氣日夕佳。陶句和者少。

臨芳墅晚坐作

乙亥仲秋之月上澣御筆

○御製詩三集卷三十一を收む。

二〇

筆者不詳(嘉慶御筆) 對聯

黑漆 金文

長五五〇
寬八五〇

「執政進精深寬和並用」
「執中垂教育雅化頻施」

嘉慶戊辰荷月恭立

二 文廟碑記、山莊圖詩及方志 中東十二格段

乾隆御筆 熱河文廟碑記 紫檀夾板 宋代寫經紙 一冊

丙申夏駐蹕熱河避暑山莊。曹秀先以禮部尙書扈從。幾暇召見。談及時政。秀先云。臣春卿也。在職言職。以爲此處宜興學校。以造就士。朕曰。愈哉亦其時矣。於是乎有設學之旨。於是乎有加額之恩。學校旣設。則文廟亟宜建。乃命相地伐棧。卜吉鳩工。宮牆泮水。殿廡禮樂一如制。越二年己亥夏。朕以來巡親釋奠而落成之。夫熱河固自古關塞以外荒略之區也。雖金遼有興州之稱。然旋舉旋廢。建置沿革率不可考。而況有臯比之傳絃誦之聲哉。是以我皇祖每年避暑於此。亦不過名之曰山莊。故有聚民至萬家之句。蓋於禮樂興。未免存待以百年之意。今則耕桑日以闢。戶口日以滋。以輻員計之。不啻數千里。而版籍或逾十萬焉。此而無學以牖民迪俗。豈宜祖猷揚聖化之道。今西域烏魯木齋等處。率置

郡縣。立學校。以此較彼。爲尤近矣。則茲文廟之建。於時於地。胥不可緩。亦不待人之請而後行。稱之曰熱河文廟者。今雖升之曰承德府。從其朔。紀其因也。昔蘇軾作韓愈碑記。夫人體道垂文。韓愈之所因者。卽夫人之所垂。而見猶待乎行。體則其本也。且水在地中。尙待求而得之。我夫子乃天之經地之義山之峙海之淵。無日不在人人心目之中。範圍曲成而不遺。豈待穿鑿求之而後得。然則木鐸之音。就謂不可覺斯民於關外荒略之區也哉。

乾隆四十四年己亥仲夏之月中潛御筆

二二 乾隆御筆 - 平定臺灣告成熱河文廟碑記

紫檀夾板 宋代金粟山寫經紙 一冊

〔御製平定臺灣告成熱河文廟碑記

昨記平定臺灣生擒二兇之事。亦旣舉平伊犁定回部收金川。爲三大事端。文勒太學。其次三。爲誅王倫。剪蘇。四十三洗田五。以在內地。懷慚弗

蕪其事。而平定臺灣介其間。固弗稱勳太學。然較之內地之次三。則以孤懸海外。事經一年。命重臣發勁兵。三月之間。擒二兇。定全郡。斯事體大訖不可以不紀。因思熱河文廟雖承德府學耶。而予每至山莊。必先展拜廟貌。秋仲丁祭。常遣大學士行禮。則亦天子之庠序矣。且予去歲籌臺灣之事。日於斯。天祐予衷。命福康安海蘭察百巴圖魯。以行及簡精兵近萬。亦發於斯。而諸臣涉重洋。冒艱險。屢戰屢勝。不數月而生擒二兇。且無一人受傷者。是非上蒼默祐。海神助順。曷克臻斯。則予感謝之誠兢業之凜。亦實有不能已于言者。籌於斯發於斯臻於斯。文廟咫尺。我先師所以鑒而呵護者。亦必在於斯。記所謂受成告成。正合於是地也。則平定臺灣告成熱河文廟。所謂禮以義起。非創實因。且予更有深幸於衷。而滋懼於懷者。予以古稀望八之歲。五十三年之間。舉武功者。凡八七。胥善成其一。惟征緬之事。以其地卑濕瘴癘。我軍染病者多。因其謝罪求罷兵。遂以振振。是此事究未成也。近據雲南總督

富綱奏報。緬甸謝罪稱臣奉貢之事。送其使至熱河。將以賜宴施惠。是則此事又以善成於斯矣。夫奉天治民百王誰不爲天子。而予以涼薄。仰賴祖宗德施。受天地恩眷獨厚近。八旬之天子藏八事之武功。於古誠稀。仰示後有述使一事尙留闕欠。予之懷慚終不釋也。自今以後益惟虔敬持盈。與民休息。敢更懷佳兵之念哉。夫天地天子之父母也。子於父母之恩不可言報。中心感激弗知所云已耳。繫之辭曰。瀛壖外郡。閩嶠南區。厥名臺灣。古不入圖。神禹所略。章亥所無。本非扼要。棄之海隅。朱明之世。始開中國。紅毛初據。鄭氏旋得。恃其險遠。難窮兵力。每爲閩患。訖無寧息。皇祖一怒。遂荒南東。郡之縣之。闢我提封。一年三熟。蔗薯收豐。漸興學校。頗晉生童。始之畏途。今之樂土。大吏忽之。恣其貪取。旣嬉其文。復恬其武。匪今伊昔。叛亂屢覩。向辛丑年。昨丙午載。一貴爽文。其亂爲最。水陸提督。發兵於外。奈相觀望。賊益張大。天佑予衷。更遣重臣。百巴圖魯。勇皆絕倫。川湖黔粵。精兵萬人。

水陸並進。至海之濱。崇武略駐。後兵到齊。恬波徑渡。一日千里。以遲爲速。叶百舟齊至。神佑之故。馳救諸羅。群賊蜂擁。列陣以待。不值賈勇。如虎搏兔。奔角隴種。頃刻解圍。義民歡動。斗六之門。爲賊鎖鑰。大里之戕。更其巢落。長驅掃蕩。如風捲籬。夜攜眷屬。內山逃脫。生番化外。然亦人類。怵之以威。資之以惠。彼知畏懷。賊竄無地。遂以成擒。爽文首繫。狼狽爲奸。留一弗可。自北而南。居上臨下。叶海口遮羅。山途關鎖。遂縛大田。略無遺者。叶二人同心。其利斷金。曰福康安。智超謀深。曰海蘭察。勇敢獨任。三月成功。勳揚古今。既靖妖孽。當安民庶。善後事宜。康安並付。定十六條。諸孽祛故。永奠海疆。光我王度。几八武成。蒙佑自天。雖今耄耋。敢弛惕乾。如曰七德。實無一焉。惟是敬勤。勵以永年。

○右二冊ともに尊經閣の舊藏なり。

內務府司庫加一級巨沈瑜恭畫

鴻臚寺序班加二級巨朱圭梅裕鳳同恭鑄

二四 避暑山莊圖詩 滿文 殿板開花紙 乾隆六年辛酉

○畫刻者右に同じ。

二三 熱河志 一百二十卷四十八冊 武英殿板開花紙

和坤等撰 乾隆四十六年

○尊經閣舊藏書。

二六 承德府志 八十六卷二十四冊

海忠等撰 道光九年

二七 承德府志模板

○文廟內舊藏。

二八 熱河避暑山莊全圖 (北壁)

○光緒年間製。

三 銅 版 畫 中 西 九 格 段

二九 御題平定伊犁回部戰圖 凡三十四幅內銅板十六張
乾隆三十七年

第一幅 聖製戰圖補詠序

第二幅 平定伊犁受降圖

第四幅 格登鄂拉斫營圖

第六幅 鄂壘扎拉圖戰圖

第八幅 和落霍漸戰圖

第十幅 庫薩癸戰圖

第十二幅 烏什酋長獻城降圖

第十四幅 黑水圍解圖

第十六幅 呼爾瑞大捷圖

第十八幅 通古思魯克戰圖

第三幅 聖製西師底定犁捷音至詩以誌事

第五幅 聖製阿玉錫歌

第七幅 聖製鄂壘扎拉圖之戰圖

第九幅 聖製和落霍漸行

第十一幅 聖製庫薩癸之戰詩

第十三幅 聖製烏什城酋長霍集斯伯克攜回衆獻城降詩以紀事

第十五幅 聖製黑水行

第十七幅 聖製我師詩

第十九幅 聖製通古思魯克之戰詩

第二十幅 霍斯庫魯克戰圖 第二十一幅 聖製霍斯庫魯克之戰詩

第二十二幅 阿爾楚爾戰圖 第二十三幅 聖製阿爾楚爾之戰詩

第二十四幅 伊西爾庫爾伊西爾庫爾戰圖 第二十五幅 聖製伊西爾庫爾之戰詩

第二十六幅 拔達山汗納欵圖 第二十七幅 聖製副將軍富德奏報拔達山汗

第二十八幅 平定回部獻俘圖 第二十九幅 聖製御午門受俘誠詩

第三十幅 郊勞回部郊勞回部成圖 第三十一幅 聖製二月二十七日郊勞出征將軍

第三十二幅 凱宴圖 第三十三幅 聖製上巳日凱宴成功諸將士詩

第三十四幅 大學士公巨傳恒等恭跋

三〇 御題平定兩金川得勝戰圖 凡十六幅 乾隆五十二年

第一幅 收復小金川戰圖 第二幅 攻克喇穆喇穆及日則丫口詩以誌事

第三幅 攻克羅博瓦山棚戰圖 第四幅 攻克宜喜達爾圖山梁戰圖

第五幅 攻克日旁一帶戰圖 第六幅 攻克康薩爾山梁戰圖

第七幅 攻克木思工噶克攻克木思工噶克戰圖 第八幅 攻克宜喜甲索等處戰圖

第九幅 攻克石真噶戰圖

第十幅 攻克雷則大海昆色爾山梁並拉枯喇噶寺等處戰圖

第十一幅 攻克勒烏圖戰圖

第十二幅 攻克科布曲索隆古山梁等處戰圖

第十三幅 攻克噶喇依報捷圖

第十四幅 凱旋圖

第十五幅 受俘圖

第十六幅 凱宴圖

三 御題平定臺灣戰圖 九十二幅

乾隆五十三年

第一幅 進攻斗六門戰圖

第二幅 大埔林戰圖

第三幅 攻克斗六門戰圖

第四幅 攻克大里杙戰圖

第五幅 集集埔戰圖

第六幅 攻剿小半天山戰圖

第七幅 生擒逆首林爽文戰圖

第八幅 大武壠戰圖

第九幅 枋寮戰圖

第十幅 生擒莊大田戰圖

第十一幅 渡海凱旋圖

第十二幅 凱旋賜宴圖

三 御題平定廓爾喀戰圖 九八幅

乾隆五十七年

第一幅 攻克擦木戰圖

第二幅 攻克瑪噶爾轄爾甲戰圖

第三幅 攻克濟甯戰圖

第四幅 攻克熱索橋戰圖

第五幅 攻克協布瞻戰圖

第六幅 攻克東覺山戰圖

第七幅 攻克伯朗古戰圖

第八幅 廓爾喀陪臣至京圖

三三

御題平定湖南苗疆戰圖

凡十六幅 乾隆六十年頃

第一幅 興師圖

第二幅 剿捕秀山苗匪戰圖

第三幅 攻克樸木山戰圖

第四幅 攻解松桃之圍戰

第五幅 大剿土空寨苗匪
解永綏城圍戰圖

第六幅 攻克蘭草坪滾牛坡戰圖

第七幅 攻克黃瓜寨賊巢戰圖

第八幅 攻克蘇麻寨戰圖

第九幅 攻得茶它柳旁
等處賊巢戰圖

第十幅 攻克高多寨生擒逆首吳半生戰圖

第十一幅 攻克廖家冲生擒
首逆石三保戰圖

第十二幅 收復乾州戰圖

第十三幅 攻克強虎哨戰圖

第十四幅 攻克平隴賊巢戰圖

第十五幅 捷來圖

第十六幅 攻克石隆苗寨戰圖

三四

御題平定貴州神苗戰圖

凡四幅

乾隆六十年頃

第一幅 剿捕狎苗南隴圍解戰圖 第二幅 攻克洞洒當丈賊巢戰圖
第三幅 攻克北鄉巴林賊巢戰圖 第四幅 勦淨狎苗餘黨戰圖

三三

御題平定安南戰圖 凡六幅

乾隆五十四年

第一幅 嘉觀訶訶戰圖

第二幅 三異柱右戰圖

第三幅 壽昌江戰圖

第四幅 市球江之戰圖

第五幅 富良江戰圖

第六幅 阮惠遣姪阮光顯入覲賜宴之圖

三六

西洋水法圖 凡二十幅

乾隆五十一年

第一幅 諧奇趣南面一

第二幅 諧奇趣北面二

第三幅 蓄水樓東面三

第四幅 花園門北面四

第五幅 花園正面五

第六幅 春雀籠西面六

第七幅 春雀籠東面七

第八幅 方外觀正面八

第九幅 竹亭北面九

第十幅 海晏堂西面十

第十一幅 海晏堂北面十一

第十二幅 海晏堂東面十二

第十三幅 海晏堂 南面 十三

第十四幅 遠瀛觀 正面 十四

第十五幅 大水法 正面 十五

第十六幅 觀水法 正面 十六

第十七幅 線法山門 正面 十七

第十八幅 線法山 正面 十八

第十九幅 線法山東門 十九

第二十幅 湖東線法畫 二十

○右銅板八種、等經閣舊藏。之等諸圖は清朝文華の極盛期を語る遺物にして、伊犁平定圖は郎世寧等内廷供奉の西洋人畫士四名 *Castiglione, Sickelhart, Darnasene, Athirt* の起稿になり巴里に於て銅刻摺印せられしもの。兩金川以下の諸圖は北京の宮廷にて作られしものなるが、筆者は畫員の馮寧が關與せることの知らるゝ外、詳かならざるのみならず、刻摺の工人に就て傳ふる所なし。但是等諸戰圖の内容は十全記と題する乾隆帝自贊の文に見ゆる十大武功の主たるものを描けるもの、西洋水法圖は北京の北郊長春園の西洋建築を圖せるものなり。詳しくは奉天國立博物館叢刊第三冊銅版圓明園圖小攷を参照せられたし。

四 銅 器 中 十 格 段

三 七 周 雷 紋 爵

右高六寸深三寸一分口縱五寸橫二寸四分重十七兩 兩柱三足有流有蓋

三 八 周 寶 尊

右高八寸三分深六寸八分口徑六寸五分腹圍一尺一寸九分重六十六兩

銘寶□

三 九 周 文 王 鼎

右高六寸六分深三寸耳高一寸三分闊一寸二分口縱四寸橫五寸一分縱

三寸四分橫四寸三分重九十六兩 銘魯公作文王尊鼎

四 〇 周 雷 紋 觚

右高八寸二分深五寸二分口徑五寸二分重二十八兩

四 一 周 蟠 夔 壺

右高九寸六分深八寸七分口徑三寸六分腹圍二尺二寸五分重一百二十兩兩耳連環金銀錯

四二 周夔鳳卣

右通蓋高九寸六分深五寸八分口縱三寸四分橫四寸二分腹圍一尺六寸八分重一百八兩 有提梁

四三 周蟠夔罍

右通蓋高九寸三分深五寸七分口徑四寸三分腹圍二尺三分重一百五十兩兩耳兩鼻

四四 周叔朕簠

右通蓋高六寸四分深二寸三分口縱七寸五分橫九寸四分重二百兩 銘
十月初吉庚午叔朕擇其吉金自作□簠以□稱梁萬年無疆叔朕眉壽子子孫孫永費用之

四五 周蟬紋簋

右通蓋高六寸徑三寸二分口縱五寸四分橫七寸三分腹圍二尺一寸五分
重一百六十六兩 兩耳四足

四六 壽洗

右高二寸九分深二寸八分口徑五寸九分腹圍一尺九寸五分重二十二兩
兩耳

○右十件は熱河志卷七十四に「乾隆四十四年五月上以熱河文廟成。特頒內府所藏周時法物十件。用光俎豆。依大學例也。謹具圖說如左。並附以祭器樂器云。

文王鼎一 寶尊一 夔鳳卣一 素洗一 雷紋爵一 叔朕簋一 蟠夔壺一
一 蟠夔罍一 雷紋觚一 蟬紋簋一 (下略)

とあるに應ず。即ち文廟の什器として乾隆帝の寄進に係るもの、民國以後幾度か逸亡の恐ありしを土地の搢紳等の協力管理によりて今日あるを得しものなり。

五 雜 器 七格上下層段及東格段

四七 金爵

四八 銀爵

四九 白磁皿在銘乾隆年製

五〇 桂花油香甌九個隨筐

五一 胭脂餅

五二 錫香盒

五三 弓二張

五四 箭九本

五五 箭套一

五六 迎戰遮一

(以下東格段)

三七 宮箏一

三八 宮箏二

六 樂 器 六 格 下 層 段

三九 架鐘

六〇 簫

六一 霸王鞭

六二 胡弓

六三 胡雷

六四 琴

六五 雙琴

六六 方琴

六七 琵琶

六八 提琴

七 戲衣 西·三·四·五格上下段

六九 男靠

七〇 門神鎧

七一 官衣

七二 靠

七三 外國衣

七四 紅緞袍

七五 緞繡花壁

七六 黃緞箭袖

七七 藍布綉花衣

七八 黃緞王帽

- 七九 黑黃緞巾
- 八〇 大頁巾
- 八一 大頁巾
- 八二 鳳冠
- 八三 白緞盃襯
- 八四 青緞盃襯
- 八五 孩髮
- 八六 布鬼臉 鬼卒套
- 八七 魁星斗子
- 八八 雷公錘壘
- 八九 花燭臺
- 九〇 銅景星鏡
- 九一 布身泥頭人

九二 繡龍旗

○右六九より九二に至る演戯用の衣裳器具類は乾隆盛期の榮華を物語るものとして現今北京故宮内に傳はる同種のものと共に最完備せるものと言ふを得べし。即ちこゝに陳列せられたるものは藏備の一部分に過ぎずして、約七十餘の藏櫃内に現存するものゝ中よりやゝ代表的と見得るものを撰みて供覽せしに外ならず。又この戲衣類中には現今俗間に行はるゝ演戯に用ひらるゝものとは頗る趣を異にするものもあれど、こは當然内外臣僚の接待に臨時に催されたる舞戲に使用せられたるものも存するなるべし。此意味に於て銅板平定臺灣戰圖の第十二幅凱旋賜宴に於ける觀戲圖を参照せられんことを希望す。此圖は熱河勤政殿内清音閣に於ける實寫なるに於て殊に興味深し。

八 佛像 中八十一兩格段

九三	南海大士觀世音菩薩
九四	南海大士觀世音菩薩
九五	菩薩
九六	同
九七	同
九八	同
九九	同
一〇〇	同
一〇一	釋迦佛
一〇二	菩薩
一〇三	同
一〇四	同
一〇五	同

一〇六 長壽佛

一〇七 菩薩

一〇八 金剛佛

一〇九 金剛佛

一一〇 喇嘛祖師

一一一 喇嘛祖師

九 佛 塔

四十三·十四格段

一一二 銅景泰藍黃地佛塔 一

一一三 銅景泰藍佛塔 二

一一四 黑古銅佛塔 一

一一五 銅景泰藍佛塔 二

一一六 銅鍍金法輪塔 一

- 二七 銅渡金佛塔 一
- 二八 銅渡金佛塔 一
- 二九 銅銀佛塔 一
- 三〇 銅渡金法輪塔 一
- 三一 景泰藍琉璃禪塔 二

一〇 佛

龕

四十五·十六·十七格段

- 一一三 銅景泰藍佛龕
- 一一三 黑漆佛龕
- 一二四 紫檀上嵌渡金佛龕
- 一二五 楠木漆塗佛龕
- 一二六 楠木桃式佛龕
- 一二七 楠木如意佛龕

一三六 黑漆洋式佛龕

一三九 金漆洋式佛龕

一三〇 金漆洋式佛龕

一一 佛具 西一二格上下段

一三一 景泰藍須彌山

一三二 銅渡金七珍八寶

一三三 景泰藍八寶 四

一三四 銅渡金燭臺

一三五 嘴吧拉

一三六 丹布嚕

一三七 銅杵

一三八 銅鈴

一三九 銅阿拉山壺(淨水壺)

一四〇 銅杓子

一四一 銅剛鬘

一四二 銅渡金號筒 二

一四三 木魚

一一一 佛

經

東十八格上下段

一四四 滿文大藏經 紅印

一四五 藏文甘珠爾 紅印

一四六 藏文佛經 北京板紅印

一四七 藏文甘珠爾華嚴部 ナルタン版

一四八 藏文佛經

一四九 蒙文大寶積經 紅印

○喇嘛教に使用せらるゝ經典は殆んど凡て西藏文にして蒙古文滿洲文は極めて稀なる異例に過ぎず。藏文大藏經は甘珠爾と丹珠爾とに分たる。前者は三藏中の經律二部に當り、後者は論部に當る。甘珠爾は更に秘密般若等の諸部に分たれ、約一千卷百有餘帙に上り、丹珠爾は顯密兩部に互る四千有餘の論疏を收め二百餘帙に及ぶ。何れも一二の例外を除き梵文原典より直接翻譯せられしものなるを以て漢文藏經の對校上極めて重要なる意義を有す。

藏文大藏經にはナルタン版北京版デルゲ版等あり。ナルタン版は西藏札什倫布の西南約六哩なるナルタン廟の藏版にかゝり弘く世に行はる。北京版は清初勅命によつて開板せられしものにして甘珠爾には康熙帝の御製序文、丹珠爾には雍正帝の御製序文あり。デルゲ版は承德には存せず。次に蒙古文大藏經は藏文甘珠爾の翻譯にして數版あり。清朝の勅版は其一。滿洲文大藏經は乾隆三十八年二月の清字經館開設の上諭に見ゆる如く蒙藏漢藏を併用して翻譯せるもの章嘉國師の監修に係る。又高宗純皇帝御製文三集卷

九に清文繙譯全藏經序あり。

こゝに陳列せらるゝ諸本はもと普寧寺、溥善寺、溥仁寺、布達拉、札什倫布、殊像寺等に製藏せられしものなるが、昭和八年之等典籍の散逸を慮り、日本駐屯軍司令部内に蒐められ、次で熱河省公署内に移管せられ、整理目録完成の後、離宮内雲山勝地の一室に移されて今日に至りしものの中より、版種裝潢を異にする代表的なるものを撰びて陳列せられしものなり。

熱河寶物館陳列品圖版

萬里春

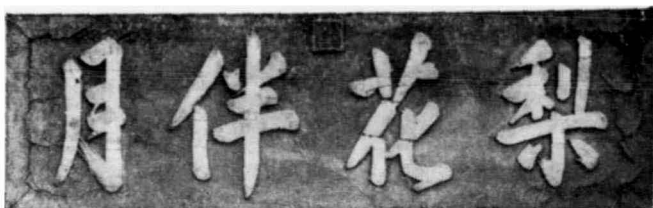
来朝數月間

戲壽千年外

還生六月秋

能解三庚暑

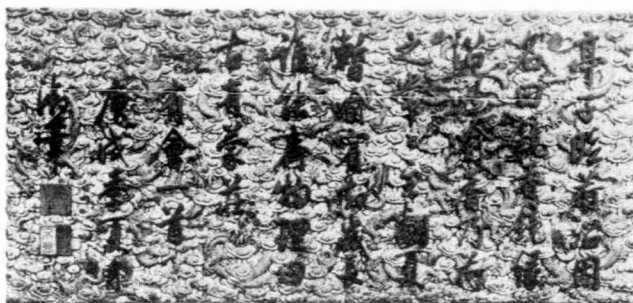
(寫真書院は本文無河實物照陳
別品目錄中の番號と符合す)



三



二



七



八

祖德昭輝 德成善務廣

聖旨明要 道矩何從心

三

樂善協邨 居德符仁智

清寧昭麗 象道體公明

趣 亭

六

一四

一五

觚稜日上照承露

鈴鐸風迴座散花

桂簷新月參三點

塞苑祥開仙林天

仙苑昭靈

一六

元

六

屛底步移被放舟泛荷池波鼓聲晚風飾香淡紫鏡群聲
 坐蘭皋斜陽的林杪嵐霧時淺深明霞繪天表仙蕊起世
 塵秋裏四面遠山氣日夕佳陶句和者少
 監考暨晚坐作
 乙亥仲秋之月上野即筆

晃朗西巖夕照明虛庭靜挹院風清波心對
 閒鷗浴林角吻：馴鹿鳴香送荷塘紅灼爍
 影浮松坂翠晶瑩汀邊小坐觀秋宇妙繪無
 形悅性情 戊辰孟秋月下澣晚坐御筆

11

寒湖
 外前清
 紅波影
 印為
 通
 頂
 林
 院
 名
 甲
 月
 清

12

持政益精深寬和並用

執中垂教育雅化頌旋

三

御筆熱河 文廟碑記

三

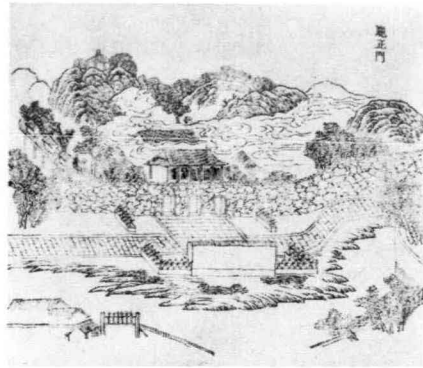
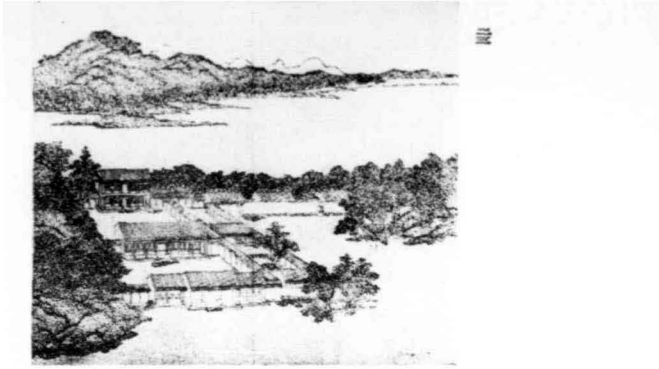
山平下定臺灣成熱河 文廟碑文

熱河
文廟碑記
丙申夏駐蹕熱河避
暑山莊曹秀先以禮
部尚書扈從幾暇召
見談及時政秀先云
臣春卿也在職言職
以為此處宜興學校

平定臺灣告成熱河
文廟碑文
昨記平定臺灣生擒二兇
之事已既舉平伊犁空回
部收金川為三大事尚文
勒太學其次三為誅王倫
翁蘇四十三洗田五以在
內地懷漸并節其事而平

豈待穿鑿求之而後
得然則
木鐸之音孰謂不可
覺斯民於開外荒略
之區也哉
乾隆四十四年己
亥仲夏之月中澣
御筆

蒙佑白
天權今老孝敬弛揚乾如
曰十德寶字一馬惟是敬
勤勵以永年
乾隆戊申季夏月中澣
御筆



三

光緒十三年四月知府廷杰重訂
教授李世堂

承德府志

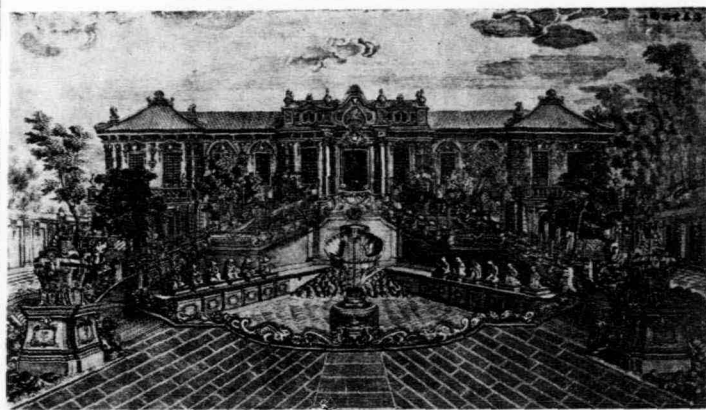
曹鴻勳題

道光九年十二月二十一日內
閣奉

上諭成格奏知府創修郡志告成請
鼓勵一摺熱河承德府知府海忠
捐廉創修郡志獨力承辦加恩著
交部議敘欽此

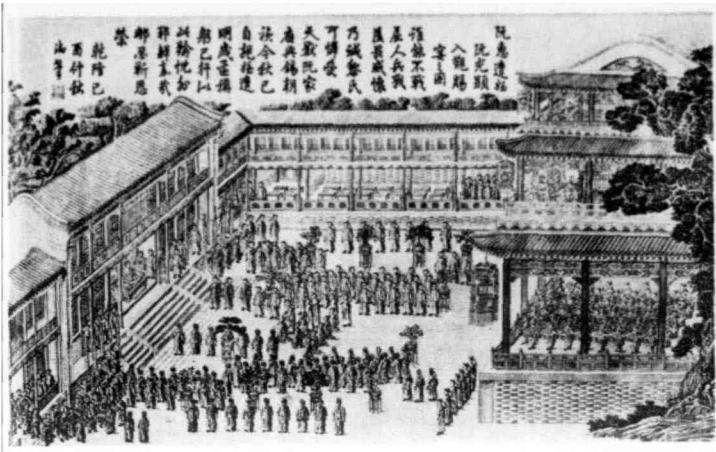


元



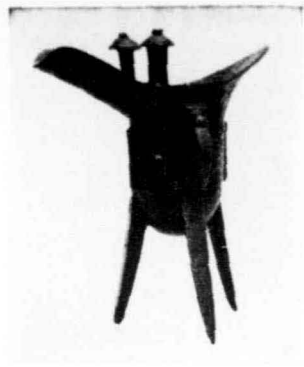
吳



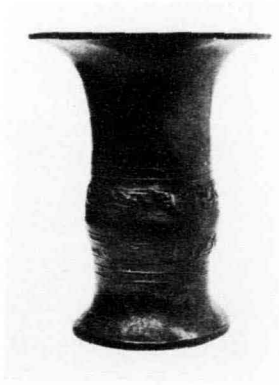




元



四



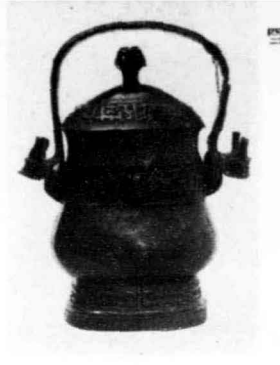
六



七



四四



四三



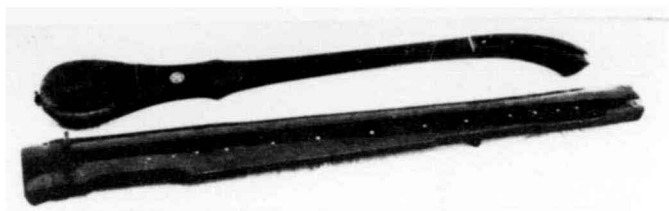
四五



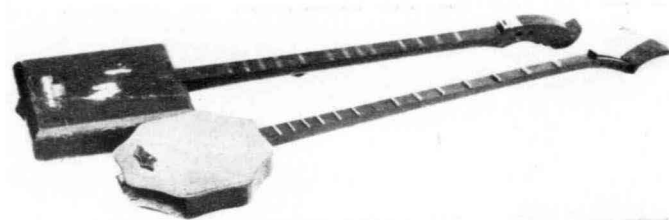
四六



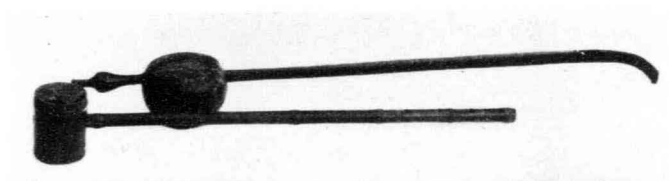
四二



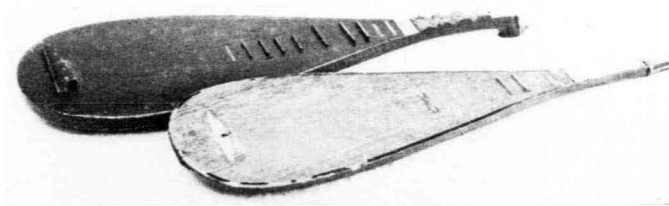
六三
高胡



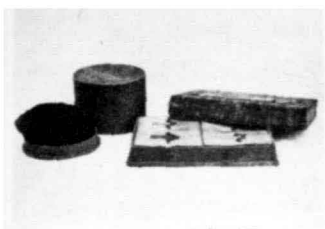
六四
琴



六五
琴



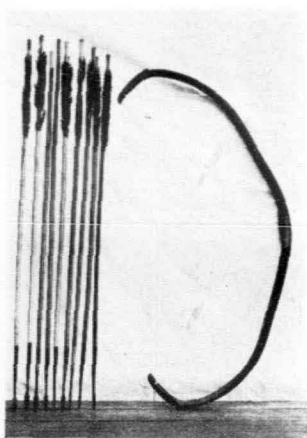
六六
琴



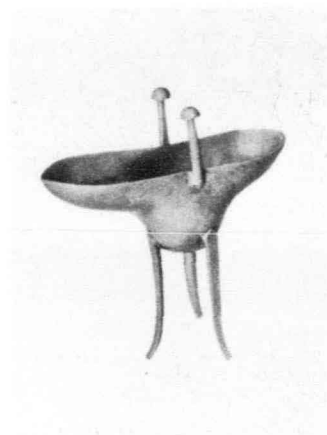
五二・五三



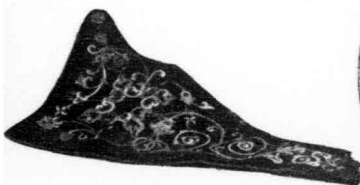
五



五三・五四



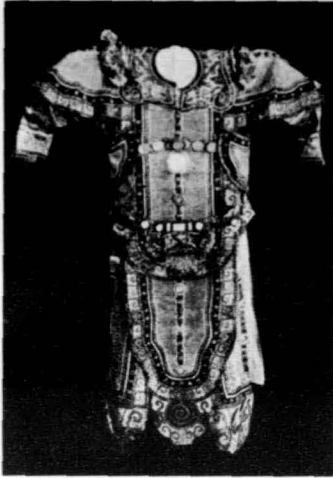
五



五



五



02

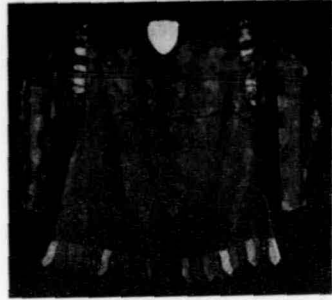


03





五



五



五



五



七



无



无



六



六



六



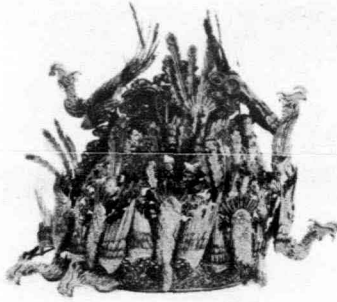
六



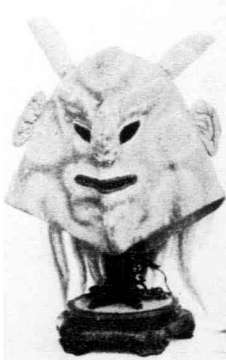
金



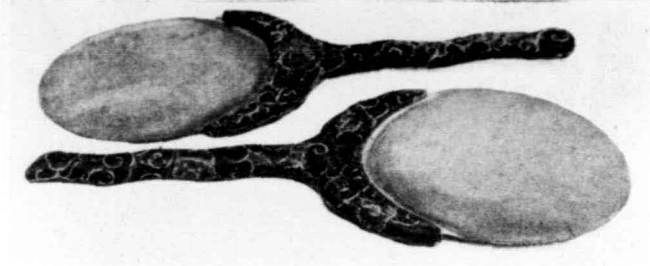
金



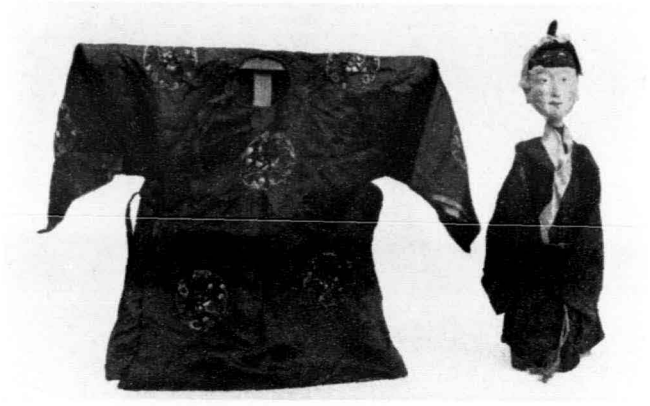
三



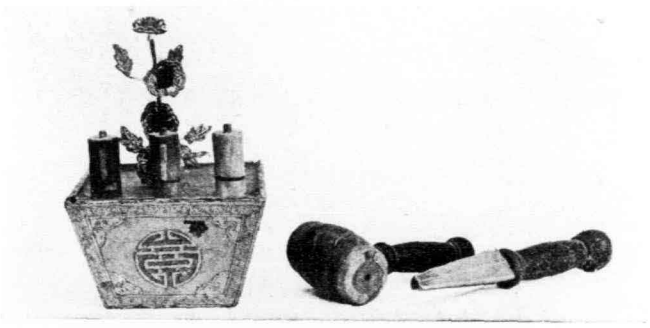
六



六



九



八七六・九



六



七



八



九

六



九





101



102



103



104



101



102





109



101



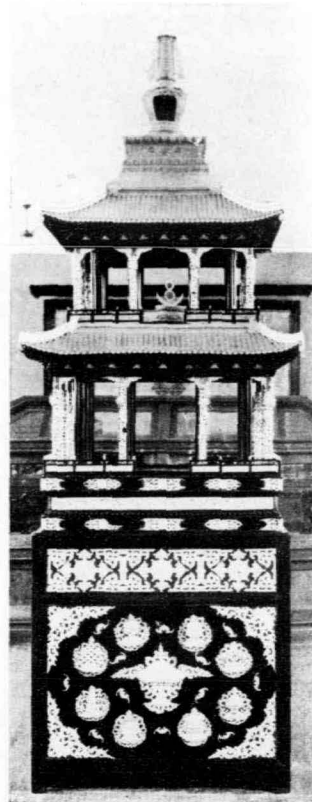
111



110



111





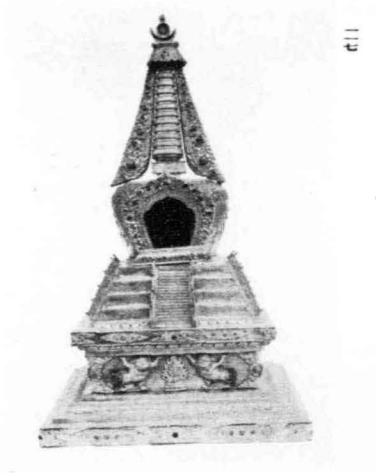
111



112



113



114



112



110





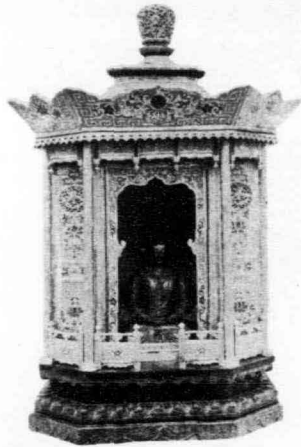
111



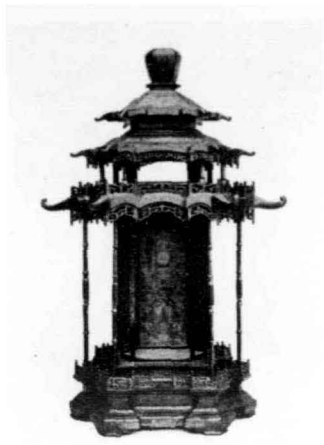
112



113



114



102



103



104



105



1011



1012



1013



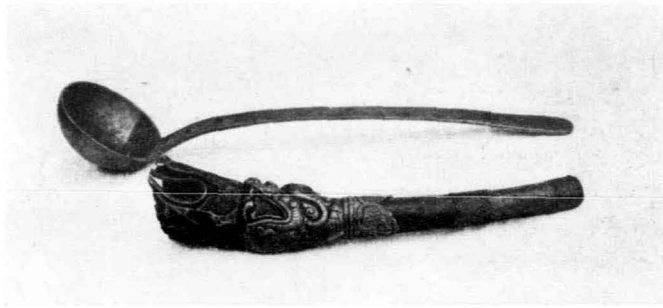
1014

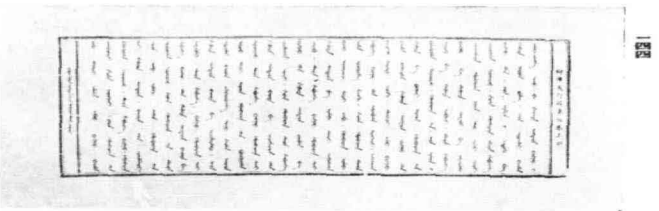
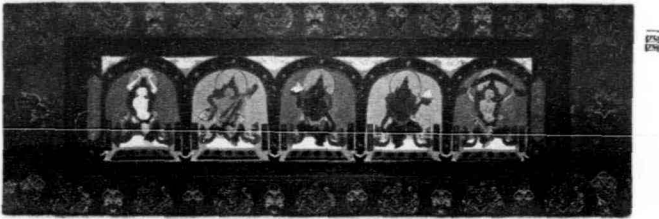
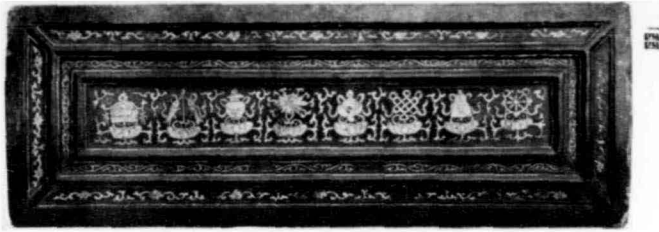


三



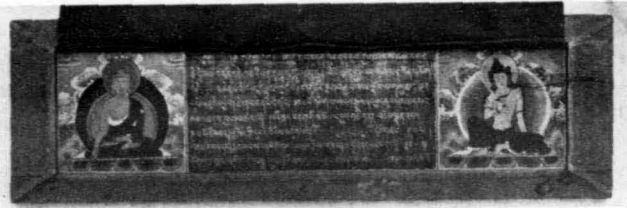
二



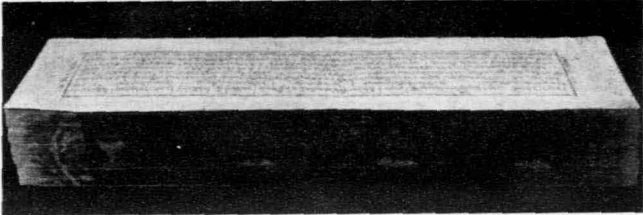




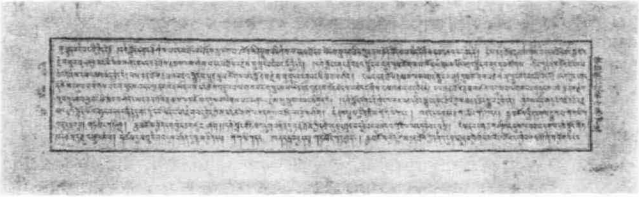
一四九
五



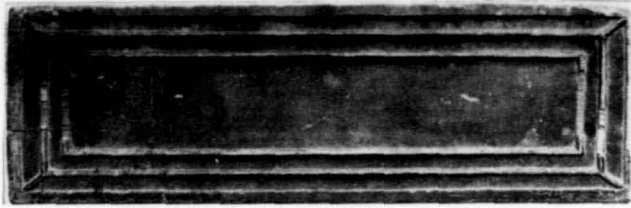
一五〇
五



一五一
五



一五二
五



一四六



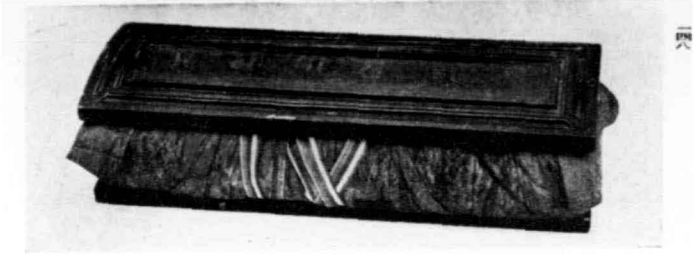
一四六



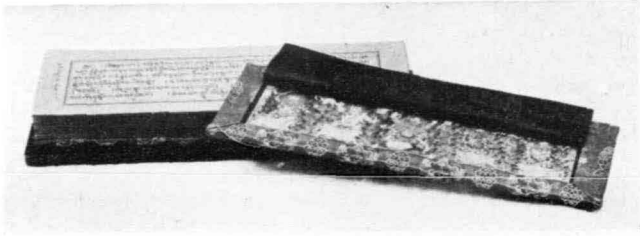
一四七



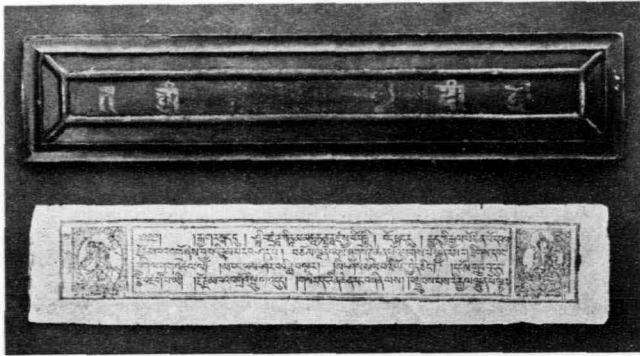
一四七



一四六



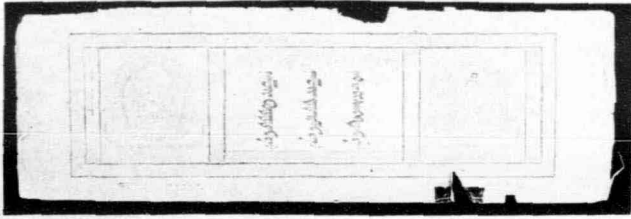
一四六



一四六



152



152

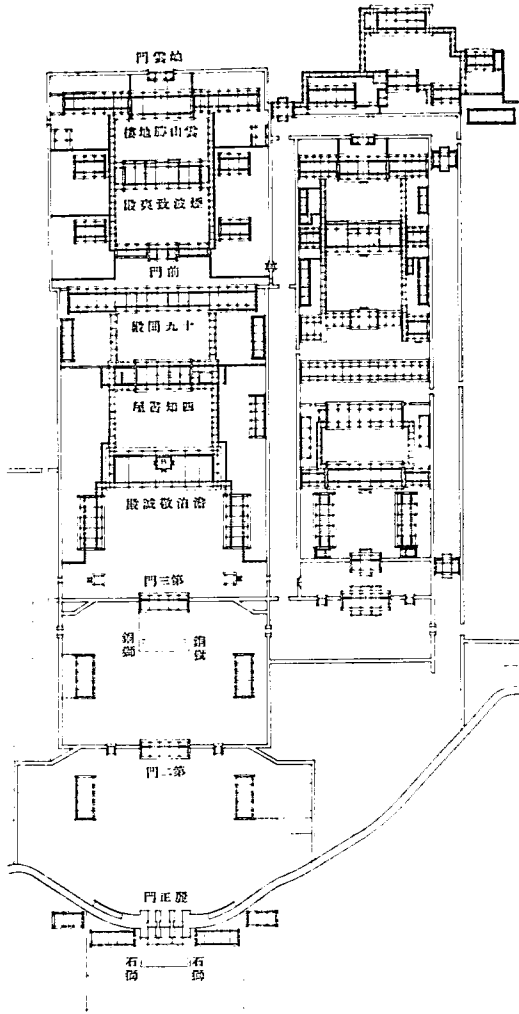


152

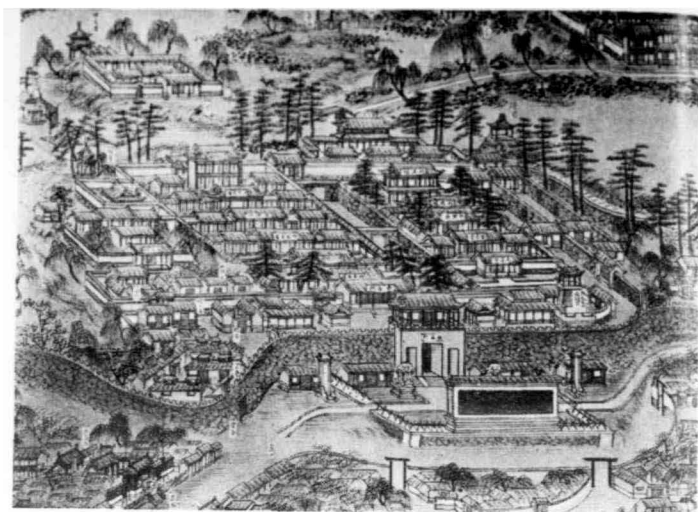


康熙帝御筆
第三門扁額

避暑山莊平面圖



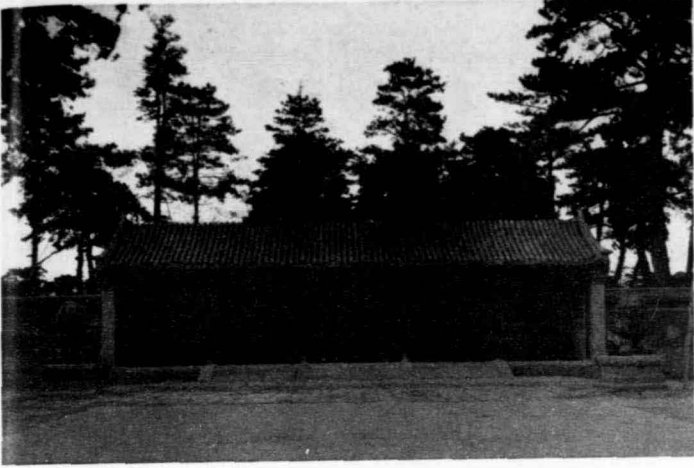
(關野貞、竹島卓一著「燕京」七號)



(八二錄目前列陳) 崗全莊山暑遊



門正麗



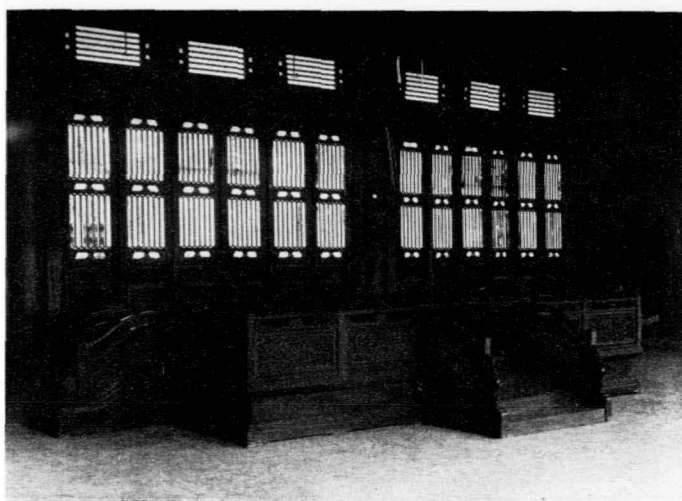
山莊正門



正門前銅獅一對



澹泊敬誠



澹泊敬誠殿內玉座



四知書屋



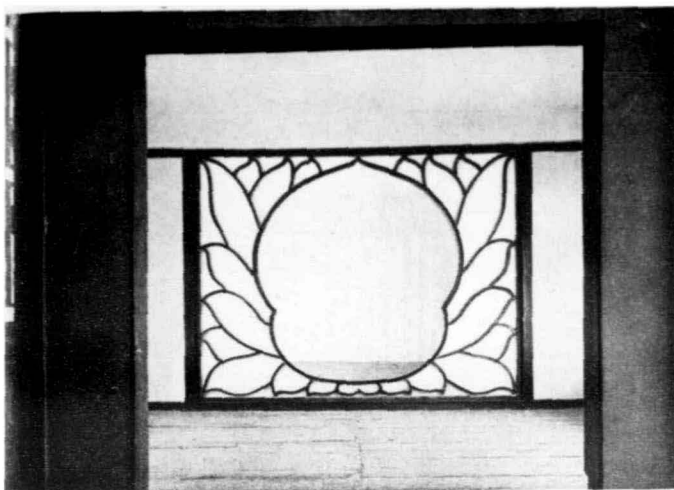
寶筏齋



煙波致爽



雲山勝地



蓮華室



軸雲門

避暑山莊

大清一統志卷二十六に避暑山莊は承德府治の東北に在り。聖祖仁皇帝歲塞外を巡り蹕を熱河に駐め給ひ、康熙四十二年避暑山莊を肇建し、時に巡り展觀臨朝聽政の所と爲し玉ふとあるやうに、山莊の由來は康熙帝が其四十二年から四十五年の間に直隸總督噶札に命じて造營せられたものであること言ふまでもないが、その肇建の旨趣は單に偃息自適の園囿を求められたものでなくして、滿蒙二族の一體一心を計らんとする有清一代の皇謨から發せられたものである。

抑々此地一帯は古來松漠と呼ばれ、深林豐草、漠南蒙古諸王獵牧の原野であつたのである。それが喀喇沁、敖漢、翁牛特諸旗によりて獻上せられ園場の制が定めらるゝに至つて、木蘭行圍は秋獮の大典、我家の家法なり、昭垂舉行已に久し。勞を習

ひ武を肆め外蕃に洽くする所以なり(嘉慶七年六月上諭)といひ、木蘭秋獮は億萬斯年、世世子孫の當に遵守すべき所、之を忽にする毋れ(仁宗木蘭記)とまで言はるゝやうになつたのである。實際此方面に於ける塞外の巡幸は順治八年世祖が獨石口を出で、熱河の西邊から察哈爾の東部にかけて行はれたを始として、聖祖に至つては康熙十六年に始まり二十年以後は殆んど毎年夏期三四月に互つて此地方に敗獵し親しく禁衛及び諸部の壯丁を率ゐて武を鍊り勇を競ひ、恩威兼ね施すの機會を作られたのである。聖祖には秋獮の詩が數々あるが、塞上宴諸蕃と題するものに

龍沙張宴塞雲收、帳外連營散酒壽、
 大漠圖青嶂、日午微風動綵旂、
 萬里車書皆屬國、一時劍佩列通侯、
 聲致無私疆域遠、省方隨處示懷柔、
 天高

とある如き、當年の風懷を想望せしむるものがある。之を要するに塞外巡狩の眼目は、勿以滿洲蒙古各分彼此、務須同心協和(康熙二十一年上諭)と言ふにあつたこと疑ない。されば避暑山莊の經營に先つこと十二年、總兵官蔡元が古北口

一帯の長城を修築せんことを乞ふたのに對へて、帝王の天下を治むるや自ら本原あり。専ら險阻を恃まず。秦の長城を築いて以來漢唐宋亦常に修理するも其時豈邊患無らんや。明末我太祖大兵を統べ長驅して直ちに入る。諸路瓦解して皆敢て當るなし。見るべし國を守るの道は惟徳を修め民を安んずるに在るを。民心悅服すれば則ち邦本得て邊境自ら固し、志城をなすと謂ふべしとは是也」と諭されたのも、亦帝が同じ年の九月に塞外に出で、烏喇岱に駐蹕せられた折扈從の諸臣に向つて、昔秦は土木の工を興して長城を修築せり。我朝は恩を哈爾喀に施して、之をして朔方を防備せしむ。長城に較べて更に堅固なり」と語られてをるのも、畢竟其意趣は同一である。本より之は聖祖の創意ではなく、清朝入關以前よりのことであつて、太宗が内蒙古四十九貝勒の推戴を容れ蒙古大可汗の大統を嗣ぎ、博克達徹辰汗明神武英の尊號を受けたのは崇徳元年のことである。言はゞ清朝は是等蒙古諸王の獻替によつて中國に君臨するに至つたとも言ひ得るからして、歴代の天子が或は公主を降嫁せしめ、或は宗室に準ずる恩遇を與ふる等、蒙古諸部の

綏撫には特に深く意を用ひたのである。山莊經營の由來する所も寔に遠く且深しと言ふべしである。聖祖御製の避暑山莊記に言ふ。

金山脈を發き、暖溜泉を分ち、雲壑滄泓、石潭青靄。川廣く草肥え、田廬を傷るの害なく、風清く夏爽かにして人の調養の功に宜し。天地の生成により造化の品彙に歸す。朕數々江干に巡遊して深く南方の秀麗を知り、再び秦隴に幸して益西土の殫陳を明かにす。北は龍沙を過ぎ東は長白に遊び、山川の壯、人物の樸、亦能く盡く述べず。皆我の取らざる所。惟茲に熱河は道神京に近く、往來に兩日を過ぎず。地荒野を闢けり。存心豈萬幾を誤らんや。因て高平遠近の差を度り、自然峰嵐の勢を開き、松に依て齋を爲り、崖を窺つて潤色し、水を引て亭に在れば榛烟谷を出づ。皆人力の能くする所に非ず。芳甸を借りて助となし、櫂を刻り、楫を丹にするの費なく、泉林抱素の懷を喜び、萬物を靜觀し、庶類を俯察す。文禽綠水に戯れて避けず。槩鹿夕陽に映じて群を成す。鳶飛び魚躍りて、天性の高下に從ひ、遠色紫氛、韶景の低昂を開き、一遊一豫、稼穡の休戚に非ざるはなく、或

は肝或は宵、經史の危微を忘れず。耕を南畝に勤め、豊稔筐筥の盈茂を望むこと、止に西成樂の時のみならず、雨暘の慶の如し。之避暑山莊に居るの概也。芝蘭を玩べば德行を愛し、松竹を見れば貞操を思ふ。清流に臨んでは廉潔を貴み、蔓艸を覽ては貪穢を賤しむ。此亦古人の物に因て比興するもの、知らざる可らず。人君の奉は之を民に取る。愛せざれば即惑ふ也。故に之を記に書して朝夕敬誠の茲に在るを改めざる也」

と、聖祖の心境は之に依つて窺ふことができる。

更に避暑山莊の景致に至つては熱河志の文最叙し得て心切なるを覺ゆるから、稍長文ではあるが左に引用する。

「昔我聖祖仁皇帝康熙四十二年に於て避暑山莊を肇建し玉ふ。陰陽向背爽塏にして地居最勝。其間の靈境、天の開く所。氣象宏敞、武烈の水に俯し、磬鐘の峰に抱り、石を疊み、垣を繞らし、上に雉堞を加へ、紫禁の制の如くす。周十六里三分。南に三門を爲る。中は麗正門、東は德滙門、西は碧峰門なり。其東及び東北

西北にも門各々一あり。東門の外は長堤蜿蜒として、北獅子溝に起り、南沙堤甃に盡く。延袤十二里、登石七層、廣さ約丈許。宮中は湖を左にし、山を右にす。山勢北よりして西するを梨樹峪といひ、松林峪といひ、榛子峪といひ、西峪といふ。回抱すること環の如し。濕翠晴嵐、朝夕狀を異にし、彈く名く可らず。湖水は東北より演進して、南萬樹園の陽に至り、淨練澄空、沙堤曲徑、如意洲こゝにあり。其北を千林嶋となす。凌空落影、望む可からず。即ち漠源西峪より來つて、湧翠岩嶺に垂れ、玉噴き珠跳り、晴雷夏雪、湖中に匯注す。湖岸は曲樹羣飛し、長橋虹駕し、引て德漚門の左に至り、出水牖を作つて、時に以て蓄洩す。高峰雲に入り、清流底を見はす。凡そ夫、カク敞殿、飛樓、平臺、與室、咸各、地形により、天趣に任じて、華飾を崇ばず、妙自然を極む。伏して聖祖の避暑山莊記及び我皇上御製前後の二序を讀むに、紹聞垂訓、意至つて深遠、周詩臺沼も美を前にするを得ざる也」

此文は何人の作であるか分らぬが、行文流麗、叙景實に宜に適つてをと思ふ。即ち山莊の地勢は、東武烈河に臨み、南北は之に注ぐ獅子溝及び西溝の二溪谷に限

られ、北及び西は丘崗に倚り、更に之を周つて東に磬鍾峰、維漢山、會龍山あり、西に廣仁嶺あり、南に僧冠峰あり、その餘勢は半壁、九華の危峰となり、南はやや豁けたるも殆んど山中の別天地をなしてをる。其間地形に依り天趣に任じて、敞殿、飛樓、平臺、與室園地をなせるものである。高宗御製の避暑山莊後序に

若夫崇山峻嶺、水態林姿、鶴鹿の遊、鳶魚の樂あり。之に加ふるに巖齋、溪閣、芳草、古木あり。物に天然の趣ありて、人は塵世の懷を忘る。之を漢唐の離宮、別苑に較ぶるに、之に過ぐるあるも及ばざるなし。

と自負極言せるも、強ち大過とは思はれない。而も土木の經營に、桷を刻り、楹を丹するの費なく、泉林抱素の懷を喜び、萬物を靜觀し、庶類を俯察する、自適、偃息の居として相應しいものであつたことは、塞北僻遠の地たるに拘はらず、康熙、乾隆、嘉慶三代の愛好を受け、寒煙、蕭條の小村から、殷富、雜沓の都會に變じたといふことでも點頭かるるのである。

聖祖が國內の勝地三十六を撰んで、之を供奉の畫員に圖せしめ、自ら詩を題して

避暑山莊三十六景圖詩を編ましめたのも、高宗が之を賡いで更に三十六景を増撰し詩圖を續修したのも、王者の風流韻事として有清一代に於ける太平の勝事たるを失はぬ。康熙御選の三十六景といふのは四字を以て題する。

煙波致爽 芝徑雲隄 無暑清涼 延薰山館 水芳巖秀 萬壑松風
 松鶴清越 雲山勝地 四面雲山 北枕雙峰 西嶺晨霞 鍾峰落照
 南山積雪 梨花伴月 曲水荷香 風泉清聽 濠濮閒想 天宇咸暢
 暖流喧波 泉源石壁 青楓綠嶼 鶯轉喬木 香遠益清 金蓮映日
 遠近泉聲 雲帆月舫 芳渚臨流 雲容水態 澄泉繞石 澄波疊翠
 石磯觀魚 鏡水雲岑 雙湖夾鏡 長虹飲練 甫田叢樾 水流雲在

乾隆續添の三十六景は三字を以て題する。

麗正門 勤政殿 松鶴齋 如意湖 青雀舫 綺望樓 馴鹿坡 水心榭
 願志堂 暢遠臺 靜好堂 冷香亭 探菱渡 觀蓮所 清暉亭 般若相
 滄浪嶼 一片雲 頻香泚 萬樹園 試馬埭 嘉樹軒 樂成閣 宿雲簷

澄觀齋 翠雲巖 罷畫窓 凌太虛 千尺雪 寧靜齋 玉琴軒 臨芳壁
知魚磯 湧翠巖 素尙齋 永恬居

である。而して是等の景勝は今日大約廢墟と化して離々たる荒草に埋まつてしまつてゐるが、一は殿板避暑山莊圖詩一は殿板熱河志によりて當年の面影を傳へてゐる。就中康熙三十六景の冠首として撰ばれた煙波致爽は、同じく三十六景の一たる雲山勝地と共に離宮の正殿たる澹泊敬誠殿の背後に在つて、山莊の核心をなしてゐる。それで茲に正殿一郭の結構を細叙して山莊の片影を偲びたいと思ふ。

まづ麗正門を入り南午門を過ぐると正面に青銅の大獅子を配した正門があり康熙御筆の避暑山莊の大字額が掲げられてゐる。之を潜ると澹泊敬誠殿の前庭に立つ。こゝには亭々たる松林があつて、左右兩隅に鐘鼓二樓があり、又配殿がある。正殿は七楹、高さ三尺許の大理石の臺上に建つてゐるが、床は黒白の大理石で發まれ、用材は盡く樟楠の素材で藻繪を用ゐない。俗に楠木殿と呼ぶのも此故で

ある。玉座は黒柿と楠木とを以て組まれ、格天井楣間には多くの匾額が懸つてゐる。中に、高宗御筆の「賦得澹泊敬誠」の詩もある。

處處瞻奎藻，
 殷殷仰聖情，
 標言淡以泊，
 繼曰敬兮誠，
 明志由斯要，
 持心在合井，
 居存守良藝，
 煩擾去私營，
 無欲函三契，
 有爲得一貞，
 堯茨垂永煥，
 虞典溯惟精。

殿中の北壁は一面書架であるが、欽定古今圖書集成が儲藏せられてゐたのである。今殿内の設備を避暑山莊陳設清冊第一函（光緒三十三年查驗）なる記録によつて列記すると左の通である。

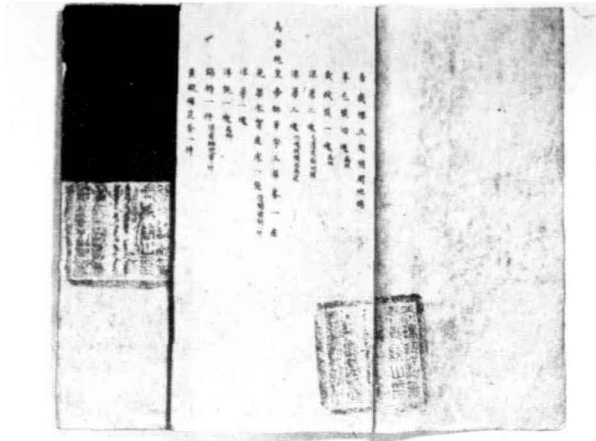
楠木殿 七間

聖祖仁皇帝御筆澹泊敬誠匾一面

高宗純皇帝御筆字挂對一副南北窗挂

高宗純皇帝御筆字横披十三件内四件風裂

高宗純皇帝御筆字挂屏十八件内二件風裂



(驗查年三十三精光) 冊清設陳莊山暑避

(驗查年六國民) 表品物存保查清

正設紫檀鑲黃楊木地手一分隨珠瑯欄杆頂計二十七箇、磕傷七件、餘二件上設

紅縐氈一塊、蟲蛀 羊毛花毯一塊、蟲蛀 紅洋氈花毯一塊、蟲蛀

泥金字紫檀三屏峯一座、拔縫字有缺處 紫檀寶座一張上設

紅洋氈墊一件、蟲蛀 黃緞繡花褥一件、兩滾

紫檀足踏一件、隨雨紗面黃緞刷足踏套一件、右設 鑲嵌回式刀一口

麗正門景扇一柄、汪由敦字董邦達畫、傷折

高宗純皇帝御製詩玉如意一柄

紅雕漆痰盒一件、寶座左右設 紫檀高方香几一對、左几上設

高宗純皇帝御筆避暑山莊後序玉版冊頁十頁、紫檀套蓋匣、盛右几上設

避暑山莊寶一方、盛寶有黏傷 鑿翎扇一對、蟲蛀、紫檀筆座

紫檀高方香几一對上設 銅嵌玻璃西洋盒二件、左右 紫檀香几一對、牙子傷、

墨玉爵端香燻一對 青玉雲龍大香筒一對、銅蓋座 銅珞珈象足鼎二對、腿有殘

紫檀香几二對、花牙微缺 古銅花盆一對、隨銅絲罩、紫檀座、東將上挂

高宗純皇帝御筆字挂屏一件

高宗純皇帝御筆字挂對一幅西牆上挂

高宗純皇帝御筆字挂對一幅風裂

黃均蔣懋德繪畫山水挂屏一件風裂左右靠山牆設

楠木包鐘几腿案一對左案上設 銅珮瑯雙耳六方瓶一件紫檀座

青綠銅鑲紋鼎一件紫檀蓋座玉頂座嵌玉 皇輿全圖二套滿霜漬右案上設

銅珮瑯雙耳方瓶一件紫檀座散卸 洋漆時樂鐘一座開黏散卸不全

青綠銅乳鐘一座花梨架座隨擺兩邊夾 皇輿全圖二套滿霜漬左右靠北牆設

楠木書格八座兩嵌上挂 青緞拾簾三十二架左右格內設

欽定古今圖書集成一部計五百七十六套有散卸

紅氈簾四架蟲蛀 竹簾四架 石青緞簾刷八件有破處

次に其背後に在る四知書屋は、その命名の由來を按ずるに、天知地知人知我知の四知に非ずして、易の繫辭に言ふ知微知彰知柔知剛に在ること嘉慶帝の敬題四知書

屋八間の註に見ゆ(仁宗御製詩二集卷六參照)。即ち勅政詰戌の道軌に合するもので、單に慎獨修己の靜區ではなく澹泊敬誠殿に附隨した聽政の便殿であつたのである。而して其陳設は前述の清冊によると左の通である。

二層殿五間

高宗純皇帝御筆銅字四知書屋楠木金漆邊黑漆地匾一面金漆邊下有殘缺

金漆邊黑漆地銅字挂對一幅

聖祖仁皇帝御筆字依清曠匾一面雨漬風裂三面挂

高宗純皇帝御筆字橫披六件東次間並北窗設

高宗純皇帝御筆四知書屋銀母字紫檀邊黑漆地三屏峯一座漆落字有缺

紫檀金漆邊寶座一張上設 錦褥一件隨繡花套一件葛布套一件

氈毯套一件蟲蛀 藍錦套一件 紫檀足踏一件隨黃氈套一件
蟲蛀寶座上設

扇一柄張照字張雨森畫 紅雕漆痰盒一件 玉如意一柄傷折原有黏
傷紫檀盒盛

鑲嵌回式刀一口鑲嵌不全左右設 紫檀金漆邊高香几一對拔縫左几上設

四知書屋青玉寶一方紫檀套蓋匣盛匣散卸不全右几上設

白玉四喜有蓋鑪瓶盒一分銅匙筋紫檀座鑪有瑕北柱上挂

仁宗睿皇帝御筆字小挂屏一件甬柱上挂

仁宗睿皇帝御筆字小挂屏一件東牆貼

仁宗睿皇帝御筆字小張蟲蛀

仁宗睿皇帝御筆字對一幅蟲蛀風裂兩邊貼

仁宗睿皇帝御筆字二張蟲蛀

硃批諭旨十八套內有蟲蛀傷缺處案北貼

畫書格一張風裂 銅火盆一件 銅珞珈火盆一件隨銅絲罩

黑漆晏桌四張漆有裂處腿有殘傷 緙絲卓圍四件包角殘傷東暖閣門甬上貼

仁宗睿皇帝御筆字斗方一張迎門貼

仁宗睿皇帝御筆字一張蟲蛀雨漬

高宗純皇帝御選名臣奏議四套蟲蛀橫榻窗上挂

高宗純皇帝御筆字橫披一件單外面西設

紫檀寶座一張上設 黃緞繡花褥一件兩滾 葛布套一件

紫繡高香几一對上設 避暑山莊寶一方有瑕雕紫檀匣盛

高宗純皇帝御筆熱河考玉版冊頁十頁雕紫檀匣盛東騎貼

仁宗睿皇帝御筆字一張蟲蛀風裂西騎貼

仁宗睿皇帝御筆字一張

床一鋪齊整 春袖拾幔一件 羊毛花毯一塊蟲蛀開線西二間三面挂

高宗純皇帝御筆字橫披六件西騎設

高宗純皇帝御筆泥金字土爾扈特歸順記圍屏十二扇紫檀邊腿殘傷風裂

寶座床一鋪齊整上設 白氈一塊蟲蛀 紅洋氈一塊蟲蛀

青緞邊涼蓆一塊蟲蛀 花倭緞一塊 黃緞織金龍坐褥靠背迎手一分隨黃袖完

葛布套一件 藍錦套一件 黃氈套一件蟲蛀

黃緞繡花坐褥靠背迎手一分兩滾開線 青緞靠背迎手三件鈔破左設

仁宗睿皇帝御製明慎用刑說一冊蟲蛀

玉韞回式刀一口

仁宗睿皇帝御筆木蘭記一冊蟲蛀

扇一柄 照字 照若 偶畫 紅雕漆痰盒一件 痒撓一件 蟲蛀

高宗純皇帝御製四知書屋手卷一卷 紫檀匣盛

銅瑱瑯鑑瓶盒一分 銅匙 筋紫檀座 缺鏤座一箇

彭元瑞字冊頁四冊 紫檀嵌玉蓋匣盛 右案上設

竹股扇一柄 陸治畫 牙竹筆四隻 小振筆一隻 蟲蛀

玉圓章三方 青玉寶一方 紫檀套蓋匣盛 開黏散卸不全

青花白地瓷圓水盛一件 玉匙 紫檀座 白玉筆山一件 紫檀座

漢玉墨床一件 紫檀座 隨紅墨一錠 殘傷不全 淨塵一分 計三件

高宗純皇帝御製緬甸詩冊頁一冊 傷折左邊設

銅瑱瑯香插一件 有座 紅雕漆冠架一件 散卸右邊設

高宗純皇帝御筆四知書屋玉版冊頁十頁內黏傷一頁下有

青玉寶一方紫檀嵌銅片匣盛銅片殘傷不全

高宗純皇帝御製熱河賞摺子一件

文存石壽青石冊頁一冊

同文久道青石冊頁一冊紫檀嵌銅片匣盛殘
傷不全右案下設

高宗純皇帝御筆四知書屋玉版冊頁十頁紫檀套蓋匣盛匣散卸不全

高宗純皇帝御製墨刻聯句冊頁六十八冊計四路間有傷折內二冊蟲
蛀一冊墨有脫落靠北牆設

青綠銅鐸一件紫檀座 銅珮出戟撇口瓶一件紫檀座靠南窗設

青綠銅有蓋封建罍一件耳殘傷紫檀座散卸

高宗純皇帝御製香山詩意山子一件紫檀座

紫檀高香几一對拔縫北几上設 自鳴鐘一座開黏南几上設

木靈芝一件原有傷處紫檀座

高宗純皇帝御製四知書屋冊頁一冊彭元瑞字夾板殘缺南柱上挂

高宗純皇帝御筆字小挂屏一件北牆貼

仁宗睿皇帝御筆字一張雨漬風裂

栽藤紅綠花地毯一塊原有蟲蛀 羊毛道條四塊蟲蛀 黃緞繡花墊八件雨漬

有板春袖簾一架雨漬破 有板袷紗簾一架破 氈簾二架蟲蛀

竹簾二架 墜風鐵鐵大小十五根

東西淨房四間

氈簾二架蟲蛀破爛 竹簾二架 錫匣子二件 錫槽子二件

錫盆四件隨 摺子一件 錫夜淨二件 銅珞瑯鑪琉璃瓶盒一分隨銅筋

四知書屋の北には寶筏齋と呼ぶ佛堂があつた。その陳設を列記すると

佛堂三間

高宗純皇帝御筆寶筏喻圖一面

高宗純皇帝御筆字挂對一副

歡門一首 條子旒四首 五彩錦緞歡門一首

五彩錦緞條子旒四首幕南窗設 紫檀高香几一件拔縫上設

古銅騎耳爐一件束牆迎門挂 金剛經塔挂屏一件脫落鑲嵌不全牆上挂

畫像佛十一軸兩滾 黃緞五彩三面卓圍一件 黑漆琴桌一張漆裂上設

南木踏蹠一分計三層上層中供 紫檀龕一座玻璃門珊瑚頂牙子嵌卸內供

銅佛三尊左右供 影子木龕二座玻璃門內供

紫檀龕五座玻璃門珊瑚頂牙子嵌卸不全各內供 銅佛一尊三層上供

紅雕漆龕一座有緞捕處內供 觀音經一部 銅佛一尊胸前挂金銀松石佛高一件內盛舍利一裸內庫存

鑲嵌鍍金輪一件嵌石嵌二塊內庫存 九江瓷瓶一對內一件有殘傷

金鑲松石八寶一分計八件六成金胎重八十六兩五錢五分未

銅佛三尊 銀鍍渡金鑲松石五供一分重一百五十九兩四錢內庫存在右供

紫檀三屏龕二座上供 銅佛六尊隨佛衣內三尊鑲嵌不全 紫檀佛高龕四座玻璃門內供

銅佛四尊 銅佛十尊內一尊寶瓶鑲嵌不全 繡挂像佛十軸

銀八吉祥八件未經磨磨內庫存 銀八寶八件未經磨磨內庫存

紫檀鑲畫玻璃吉慶連二挂燈一對紫檀桃竿座流穗不全嵌卸 撞錦毯一塊蟲蛀破

黄緞褥二件破 金満達一件係八成 銅盤銅鈴四件銀嵌不全

霽紅漆盃三件 凍青釉靈芝碟八件 銀索銅陶撓一副

銅燗篋一件隨木櫃 藍玻璃瓶一件隨牙花不全 沈香木山子一件

銅波金鈴杵一分 銅杵一件 銀嘎布拉徑八件隨銀托銀遮火一件未經磨廳內庫存

銅珞珈五供一分隨西洋玻璃花二枝紫檀座散卸不全座另存 銀鑲玻璃畫片八供一分未經磨廳內庫存

招絲珞珈五供一分隨銀珞珈花二枝珞珈座另存有傷處紫檀座另存 銀鑲玻璃畫片六供一分未經磨廳內庫存

珞珈大盤一件 珞珈銅鈴一件 紫檀蓮瓣供座一件

南木方盤桌一張拔籬西間障北窗設 床一鋪齊整

紫檀四方龕一座玻璃門殘傷散卸不全內供 銅佛一尊

青綠銅百乳鑪一件紫檀蓋座玉頂開黏座散卸不全 洋瓷燼肝一隻

袷袖簾二件破 黒漆琴桌一張漆開裂

次に其北に在るのが康熙三十六景の第一位を占むる煙波致爽である。圖詩には、爲殿七楹、高敞高明、旁挹雲嵐、後帶湖濱、爲三十六景之冠」とあり、聖祖起臥の書房

である。従つて此處の陳設は他に比して特に豊富なるを覺ゆる。

殿七間中挂

聖祖仁皇帝御筆煙波致爽匾一面風裂下挂

高宗純皇帝御筆福字一張

高宗純皇帝御筆字方挂屏一件蟲蛀

高宗純皇帝御筆字挂對一副蟲蛀兩邊柱上挂

高宗純皇帝御筆泥金字黑漆地抱月挂對一副匾左右貼

仁宗睿皇帝御筆字橫披二張蟲蛀兩漬中三間西北挂

仁宗睿皇帝御筆字橫披六件內一件風裂東西柱上挂

仁宗睿皇帝御筆字小挂屏二件東窗臺上設

棕竹嵌銅柱杖一件 木柱杖一件 紅洋氈一塊蟲蛀 花倭緞一塊

青緞邊涼蓆一塊破 青緞坐褥靠背迎手一分原沾破 葛布套一件

黃緞繡花坐褥靠背迎手一分雨漬 黃氈穩坐褥一件蟲蛀破 靠北左設

勒保劉突煜字冊頁二冊 蟲蛀傷折 靠北右設 鄒邴泰李潢字冊頁二冊 蟲蛀傷折

紅洋氈墊二件 蟲蛀 刻花玻璃時刻鐘一座 殘傷

煙波致爽玉寶一方 雕紫檀匣盛 木靈芝山一件 木盤盛 散卸

瓷瓶三件 青玉如意一柄 白玉如意一柄 有瑕

仁宗睿皇帝御製文手卷一卷 隨

白玉搔指五件 紫檀嵌銅片匣盛 我座右邊設 包金葉鞘玉鞞劍一把 鑲嵌不全

紅蠅刷一把 蟲蛀 痒撓一件 蟲蛀 碧玉痒撓一件 末安設在櫃內

仁宗睿皇帝御筆字畫 畫竹股扇一柄 破

紅雕漆痰盒一件

仁宗睿皇帝聖駕六句詩冊頁一冊 蟲蛀 汪如淵字

仁宗睿皇帝御筆上蘭讚典冊頁四冊 紫檀套上設

仁宗睿皇帝御筆木蘭記冊頁一冊 上設

仁宗睿皇帝御筆上蘭讚典冊頁三冊 上設

容鏡一面 青綠銅回子豆一件紫檀套蓋匣盛座開黏

梳椰木半圓桌一張散卸不全上設 象牙筒一件內裝犀蛇一條傷折

洋銅匣一件內盛 千里眼一件殘傷不全香几下設

洋銅玻璃圓鏡一面 綠玉盆景一對花葉微有脫落

彩勝挑竿花籃盆景一對 銅鍍石花籃紫檀木甌鍍金

一件 上嵌 大小十一玉葉花并六枝上嵌 紅石花頭十一朵白石花

一件 上嵌 大小十玉葉花并六枝上嵌 紅石花頭八朵白石花

銅瑠瑯大吉挑竿花籃盆景一對 上嵌 大小七葉花并二枝花頭大花頭大小九朵花

并不全

鑲嵌太平有象一對 綠石象各上嵌 銅鍍金鑲嵌鞍轡串珍珠流穗嵌碎小紅石大鈞

鑲嵌金鞍一隻如意二柄上嵌 紅石二塊各拴玉雙魚一件

綠石吉慶一件隨珠流穗六串鑲嵌脫落不全左右設

紫檀炕格一對一件散卸不全左格上設

仁宗睿皇帝御製木蘭詩一冊趙東冲字紫檀嵌玉腰圓盒盛散卸

仁宗睿皇帝御製慎刑論墨刻頁一冊蟲蛀殘缺

仁宗睿皇帝御製木蘭記墨刻冊頁一冊蟲蛀

仁宗睿皇帝御筆普陀宗乘廟贈禮記事詩墨刻手卷一卷

仁宗睿皇帝御製宗室訓墨刻手卷一卷蟲蛀

仁宗睿皇帝御製八旗箴墨刻手卷一卷

仁宗睿皇帝普陀宗乘詩命劉權之書跋墨記冊頁一冊紫檀嵌玉套蓋盒盛

青綠銅太平罇一件紫檀座 紫玉百獸豆一件紫檀座另存

翡翠瓷直口瓶一件銅口毛邊紫檀座另存 古銅商銀三足筒子罇一件紫檀商絲蓋座玉頂開黏無存

凍青釉富貴梅瓶一件有鴛鴦紫檀座另存 青玉雲龍腰圓洗一件底面透紫檀座另存

舊密瓷花澆一件紫檀座另存右格上設 紫檀鑲嵌匣二件銀嵌脫落各內盛

永旋字冊頁一冊 紫檀套蓋盒一件內盛 青玉寶一方

青玉仙山一件紫檀座散卸 青綠銅花瓶一件紫檀座散卸

翡翠瓷瓶一件口破碎紫檀座另存 銅瑠瑯石榴瓶一件紫檀座另存

仁宗睿皇帝御筆字綿億董誥畫小插屏四件紫檀邊插屏前設

跪像漢白玉童子二座手執 鸞翎風扇各一柄蟲蛀

青玉香插一件紫檀座另存 三彩瓷盒一件紫檀座嵌卸寶座左右設

紫檀香几二件內高的一件長方一件右几上設 漆架文具櫃格一件上設

玉四季花洗一件紫檀座另存 青玉方盒一件有瑕紫檀座另存

銅鑲嵌藍玻璃盒一件內盛 嵌紅綠玻璃小戮二圓 白玉瓜式盒一件

花石蛤蟆一件 牛油石福壽水盛一件 漢玉臥虎一件

金星玻璃水盛一件玉匙 茶晶鼻煙壺一件 青玉鵝一件

瑪瑙鼻煙壺一件 漢玉馬一件 犀角雙唇鼻煙盒一件

和闐玉雙石榴一件第二層盛 漆筆二隻 銀珞鄭筆山一件

銀珞瑯嶼紙三件 黑紅墨各一錠 銀水盛一件 石硯一小方

漢玉蟬一件 孫士毅字冊頁一冊傷折第三層盛 漢玉桃一件

王杰字董誥畫山水冊頁各一冊 漢白玉圓洗一件 哥窑瓷小碟一件

套紅玻璃鼻煙壺一件 鑲洋畫片火燧包一件 彭元瑞字手卷一卷

壽山石圓盒一件 青玉雙猫一件 漢玉雙娃娃一件

柳子鼻煙壺一件第四層盛 綠瓷小瓶一件 流金銅水注一件

金漆雙唇盒一件內盛 漢玉仙人一件 白玉雙魚一件

青玉異獸一件 漢白玉靈芝爪式暖手一件 凍石索子圖章二方

漢玉圖章一方 套紅玻璃鼻煙壺一件 銅鑲瑪瑙盒一件

水晶雙魚一件 銀晶圖章一圓 青玉鼻煙壺一件 弘許畫冊頁一冊

汪承霈畫手卷一卷上設 玉蓋盤二件有瑕紫檀座另存西壁牆表盤上貼

仁宗睿皇帝御筆字橫披一張兩邊挂

仁宗睿皇帝御筆字挂對一副蟲蛀破

仁宗睿皇帝御筆字方挂屏二件蟲蛀破下設

霽紅瓷膽瓶一件紫檀座另存內插 鸚鵡掌扇一柄殘傷

青綠銅朝天耳繩紋三足鼎一件銅蓋嵌玉紫檀座開黏另存兩邊設

仁宗睿皇帝御製詩二集一部計四十本套散卸

紫檀嵌玉珽瑯冠架一件散卸不全 銅儀器一對散卸不全

銅珽瑯四季長春盆景二對內

一盆 上嵌紙本梅樹一槩白玉花頭一百八枝嵌鑲玉葉花六枝珊瑚珠六箇黃石花

一盆 上嵌紙本玉葉花六枝嵌鑲珊瑚珠八箇玉花頭二十朵紅石

一盆 上嵌紙本玉葉花六枝嵌鑲珊瑚珠八箇玉花頭二十朵紅石

一盆 上嵌紙本玉葉花六枝嵌鑲珊瑚珠八箇玉花頭二十朵紅石

諸臣公進詩冊頁八冊微有蟲蛀

高宗純皇帝御製詩意冊頁十冊微有蟲蛀一冊殘缺案下設

青綠銅獸面雙環方罇一件散卸座 青綠銅繩絡有蓋瓶一件散卸座

青綠銅三足奔鱸一件散卸座 青綠銅獸面雙環圓罇一件散卸座

青綠銅朝天耳三喜蓋鑑一件玉座散卸 青花白地瓷魚缸二口木架

銅罇子一件 南木半腿玻璃鏡一面隨粧緞套一件破左右金柱上挂

玻璃掛屏二件紫檀邊東壁牆上貼

仁宗睿皇帝御筆字橫披三張南北設

彩漆雲龍櫃一對漆有裂處南櫃內設 小洋漆經桌一張 地輿圖十卷又一張北櫃內設

紫檀嵌玉如意一柄 大小鼓二面 板一副 勅書一道

洋瓷如意一柄隨珊瑚豆二筒 椰子坊茶盤一件風裂 木盃一件

紅花瓷圓盒一件 銅胎琺瑯鼻烟壺十三件 洋佩刀一對

九江瓷書燈一對紫檀座散卸 白瓷花澆一對紫檀座另存 三彩瓷水盃一對磁座另存

乳釉瓷碟一對紫檀座另存 雕紫檀瓜式盒一件 玉吉慶一件紫檀鑲銅竿

玉描金盃一件 玉圭一件 玉斧珮二件 玉鑲嵌二件

玉碟大小五件內三件有瑕 玉甌大小五件內二件有瑕 玉腰圓盒一件

玉火蒟蒻蘆一件 碧玉花鑲碟二件 玉雙耳蓮瓣洗二件有瑕

綠玉蓮瓣洗一件 玉有蓋鑲嵌花澆一件有瑕鑲嵌脫落

白玉綠玉洗盤碟共十件內四件有瑕 玉盤大小九件有瑕 碧玉洗一件

青玉大吉洗一件有瑕 玉洗二件有瑕 玉蓋一件有瑕
 青玉腰式蓋壺一件 碧玉白玉菊瓣碟大小四件 碧玉盞一件
 玉匙一把有瑕 紫檀韞玉匙二把匣盛 青玉單韞菊花吐盃一件
 青玉花澆一件 漢玉白玉十三件 漢玉盃座一件有瑕
 青玉腰圓蓋盤一件 玉腰式碟三件 玉圓碟三件有瑕
 白玉海棠式小盒一件 玉葵花單韞洗一件有瑕 玉桃式洗一件有瑕
 玉有蓋扁盒一件有璽 玉菊花碟一件 玉小筆洗一件
 青玉單耳蓋洗一件有瑕 碧玉單韞洗一件 碧玉碟一件
 玉起花盤一件 白玉盤一件 白玉起花雙耳蓋盤一件
 玉有蓋壺一件 玉盤一件 玉雙耳盃一件 墨玉小盤一件
 青玉腰式茶盤一件有瑕 木盤一件 玉艾葉洗一件 玉起花盤一件
 玉雙耳腰圓洗一件 玉海棠式水盃一件 黑漆嵌螺甸圓盒一件
 洋漆六方盒一件缺足 洋漆蓋盒二件 蒲蓆月斧扇一柄

丁田澗字冊一頁一冊蟲蛀開黏 蕭芝字冊頁一冊開黏

錢汝誠字冊頁一冊蟲蛀開黏 紅片金二疋 回子錦一疋

三色宋錦四疋 金銀絲繡花紅黃粧緞大小二塊 紅色長一丈八尺 黃色長一丈九尺

松紋緞一塊長十八尺 金絲花緞一疋 銀絲花緞一疋

絳袖飯罩一方 犀角花插雙件有襲座

嵌螺甸定子香佩二十箇 錦匣二箇盛螺甸脫落地鏽 黃地紅花氈三塊 藍布襲原有蟲蛀

撞錦毯道條四塊東暖閣東階掛

高宗純皇帝御筆字掛屏一件絹有破處

高宗純皇帝御筆字掛對一副蟲蛀南北貼

仁宗睿皇帝御筆字二張寶座上設

紅氈氈一塊蟲蛀兩別 拾花倭緞一塊 青緞邊涼蓆一塊破

紅洋氈一塊蟲蛀 黃緞繡花套一件 葛布套一件

黃鶴氈套一件 黃緞織金龍坐褥靠背迎手一分原沾

高宗純皇帝御製詩青玉如意一柄 紫檀嵌玉如意一柄

仁宗睿皇帝御筆義利辨墨刻手卷一卷

紅蠟刷一把蟲蛀 包金葉鞘綠玉鞭劍一把鏤嵌脫落 紅雕漆痰盒一件

痒撓一件蟲蛀 碧玉痒撓一件傷斷不安設在箱內 容鏡一面右設 文竹如意一柄

仁宗睿皇帝七旬詩冊頁一冊開黏劉隨雲進

仁宗睿皇帝御筆字董誥畫竹股扇一柄字傷

高宗純皇帝御筆避暑山莊三十六景詩畫冊頁二套套散卸左套上設

仁宗睿皇帝御製文二集一部十二本右套上設

仁宗睿皇帝御製文初集一部八本

讀尚書詩一本蟲蛀 章明遼古冊頁一冊 徐鑑字冊頁一冊蟲蛀左右設

紫檀木玻璃六方罩蓋盒二件內一件玻璃有破處一件內盛 漢玉梅花洗一件紫檀座

青綠銅繩絡罇一件紫檀座 白玉遊魚一件傷折紫檀座

漢玉小璧一件紫檀座 青玉鳴鳳在竹雙孔花插一件紫檀座

白漢玉娃娃一件紫檀座
 白玉筆換一件紫檀座
 白玉奎壘一件紫檀座
 漢玉腰式洗一件紫檀座
 青花白地瓷小膽瓶一件紫檀座
 青綠銅商銀臥牛一件紫檀座
 白漢玉酒圓一件紫檀座
 青花白地瓷水盛一件紫檀座
 青漢玉娃娃一件紫檀座
 青綠銅蛤喇筆換一件紫檀座
 漢玉玩器一件紫檀座
 碧玉瓜式水盛一件紫檀座
 漢玉臥羊一件紫檀座
 填白瓷暗龍碟一件紫檀座
 銅掐絲琺瑯雙耳蓋鼎一件紫檀座
 漢白玉雙耳洗一件紫檀座
 青玉臥馬一件紫檀座
 白玉雙鹿一件紫檀座
 青玉鼠一件紫檀座
 青漢玉犬一件紫檀座
 青綠銅花襲一件銅膽紫檀座
 白玉巧工壘一件紫檀座
 青綠銅商金銀三足蓋鼎一件紫檀座
 白漢玉臥羊一件紫檀座
 白玉壘一件紫檀座
 哥窑盞直口瓶一件紫檀座
 青綠銅方瓶一件紫檀座
 白漢玉雙螭耳圓洗一件紫檀座
 青漢玉嬰兒一件紫檀座
 白漢玉鴛鴦一件紫檀座

青綠銅商金銀蓋壺一件紫檀座

高宗純皇帝御製詩意漢玉山子一件紫檀座另存

填漆盒一對各內盛 漢玉乳釘璧一件 漢玉璧一件

仁宗睿皇帝御筆字冊頁一冊

董誥畫冊頁一冊 漢玉珖二件 竹根象一件牙傷 竹根牛一件

紫檀嵌玉長方匣一對鑲嵌不全內盛 玉玩器二十件

仁宗睿皇帝御筆字冊頁一冊

綿億畫冊頁一冊 案上中設 玉寶三方 紫檀套盛案下設 萬年國寶圖一錦套 內有傷折處

高宗純皇帝御筆字王原祁畫竹股扇一柄傷折

牙竹筆四隻 哥密瓷渣斗一件底有傷

劉權之詠左傳詩冊頁二冊 開黏驢紫檀匣盛 青綠銅流金雙魚墨床一件 鑲紅墨一

五彩瓷瑯瑯變針表二件內一件盒有墨案下右邊破

高宗純皇帝御製盛京詩八本

汪潤芝字冊頁一冊 銅鍍金福壽瓶花一件鑲嵌不全花缺一枝

紫檀嵌玻璃罩燵人一件

仁宗睿皇帝聖駕東巡詩一冊 銀聰賢字蟲蛀開黏

磨花玻璃時刻鐘一座 錦匣嵌玻璃罩燵人一件殘傷不全

碧玉獸面蓋罐一件 洋漆炕格一對漆開裂左格上設

仁宗睿皇帝御製文初集八本

味餘書室隨筆四本

仁宗睿皇帝御製詩初集三十本

白玉火蒟蒻蘆一件 喇嘛字經二十二頁黃楸 小腰子荷包四箇

熱河賦小冊頁一冊 開黏劉
星碎字 青綠銅腰圓單鞦屨一件 紫檀座另存
南抽匣內盛

伊達拉石鼻煙盒四十件 規矩一件 鑲牛皮火蒟蒻蘆八件中抽匣內盛

摺扇二十四柄蟲蛀傷折十柄北抽匣內盛

高宗純皇帝御製喜雨詩一冊 裝日修字夾板傷折

洋漆鼓式盒二對 洋漆六方小圓盒二件 小魚刀一把皮套

厄魯特荷包一箇 白玉透風香囊一件珊瑚珠 小魚火燧一把隨黃緞裕楸

火燧四把破爛 昭代簪留一部計二十一本套霉爛

勸善金科一部計二十一本套霉爛 銅瑛瑯牧童異獸一件

乳釉瓷鉢一件紫檀座 青玉夔紋鐘一件有瑕紫檀架散卸櫃門內設 佩文詩韻一本

高宗純皇帝御製避暑山莊詩二本

填漆壽春小茶盤二件隨黃緞裕楸 漢玉仙山一件碧玉座

青綠銅夔紋三足鼎一件紫檀座 青花白地瓷貓式香燵一件內盛

回子鏡二箇抽屜內 雕象牙福緣善慶雙連盒一件茜牙座

瓷壇指二匣計三十六箇 洋漆扇面盒二件 木筯一件中抽屜內盛

伊達拉石鼻煙盒十八件 洋漆六萬高裝盒四件

瑞樹圖一錦套計二册蟲蛀傷折套 紫檀格一對拔縫散卸不全格內設

天然木玩器二十九件內有殘傷 黑漆描金匣二件各內盛

高宗純皇帝御製避暑山莊詩扇十八柄內有傷折三柄

洋瓷梅花式盆四季長春盆景四盆

一盆 上嵌銅鑲綠石葉葡萄架一棵紫晶石葡萄珠二十六串共計二百枝

一盆 上嵌銅鑲石葉葫蘆架一棵上嵌紫晶石葫蘆二十四箇

一盆 上嵌木本枝牛角樹一椽上嵌紅石桃珊瑚花并二枝

一盆 上嵌佛手樹一棵上嵌蜜蠟佛手十箇銅鑲翡翠

斑竹嵌玉拄杖一件甬窗臺上設 銅鍍金嵌表規矩箱一件

洋瓷書式金鐘籠一對內一件有破處 五彩瓷蓋罐一對紫檀座散卸

五彩瓷三子瓶一對內一件黏傷 洋瓷紅花金串連書套金鐘籠一對內一件黏傷

均釉瓷直口瓶一對紫檀座散卸 五彩瓷金鐘籠一對隨座內一件黏傷

宋釉供花描金有架座蓋盃金鐘籠一對隨座有殘傷處北窗臺上設

銅鍍金嵌表規矩箱一件 宋釉描金瓷香插一對紫檀座

霽青瓷五福流雲太平尊一對福有毛邊紫檀座

洋銅廣瑠嵌玻璃盆大吉盆景一對
洋盆有殘缺處玻璃有驚墨
洋漆座有殘傷不全內

一盆
上嵌蜜嶺山子三件珊瑚花頭六朵
桑牛油石桃花石玉珊瑚花頭二十九箇
嵌有傷處

一盆
上嵌蜜嶺山子四件珊瑚天竺花頭十一朵
頭三朵綠晶石紫晶石珊瑚珠三十六串
嵌不全

廣瑠瑠小缸一件紫檀座散卸
洋漆杌子十二張漆有裂處腿有殘傷

錦墊十二件內二件破爛
石青緞邊涼蓆杌墊十一件破爛西壁牆門斗上貼

聖祖仁皇帝御筆字橫披一張雨漬下貼

仁宗睿皇帝御筆字橫披一張蟲蛀南挂

關槐畫挂屏一件風裂下設
紫檀琴桌一張散卸
銅嵌玻璃時刻鐘一座

紫檀嵌玉瑠瑠冠架一件散卸不全
兩邊設
味餘書室全集定本一部北邊設

仁宗睿皇帝御筆字挂屏一件風裂下設

紫檀琴桌一張
五彩盜梅瓶一件傷斷紫檀座
散卸兩邊設
銅鉢盂火盆二件銅座隨

紫檀小圓香几二件
銅瑠瑠火盆大小三件木座散卸
銅火盆二件南窗安

大玻璃一塊南柱上挂
玻璃挂屏一件窗上挂

仁宗睿皇帝御筆字橫披二件南北柱上挂

仁宗睿皇帝御筆字小挂屏二件北窗挂

西洋壁衣二件地錦 裁絨花毯一塊蟲蛀 羊毛花毯一塊蟲蛀

撞錦毯四塊蟲蛀 涼蓆一塊破空插屏缺

其陳設の盛想見するに足る。

煙波致爽の背後に抑齋といふ一小區があつたものと見え、その陳設が左の如く清冊に出てゐる。

寢宮門上挂

高宗純皇帝御筆抑齋匾一面

孔陟畫花卉挂屏一件破 紅雕漆轎瓶一對珊瑚玉石花頭枚葉俱全

仁宗睿皇帝御筆字小挂屏二件左右貼

仁宗睿皇帝御筆字二張門裏面西貼

仁宗睿皇帝御筆字橫披一張門左右貼

張照字對一副破爛迎門面東貼

仁宗睿皇帝御筆字一張蟲蛀破

仁宗睿皇帝御筆字對一副蟲蛀破

綠玉盤佛手仙桃一對銅累絲座

畫人物冊頁二冊紫檀匣二箇盛匣散
卸罩內東西牆貼

仁宗睿皇帝御筆字二張蟲蛀破

床一鋪齊整上設

紅白氈二塊蟲蛀破

南窓罩內東牆安玻璃一塊西牆貼

仁宗睿皇帝御筆字一張蟲蛀破

床一鋪齊整上設

紅白氈二塊蟲蛀破

青緞邊涼蓆一塊破

葛布墊一件蟲蛀破爛

紅洋氈一塊蟲蛀

黃倭緞毯一塊隨黃袖裏襯襪破

青緞坐褥靠背迎手一分破隨

葛布套黃紬氈單一件

黃江納繡花靠背迎手三件

黃江納繡花坐褥套一件

玉如意一柄

扇一柄綿億字畫

紫檀嵌玉半壁如意一柄

紅雕漆痰盒一件

玉有蓋英雄觥一件有瑕頂殘傷紫檀座

天然木鶴鹿二件鳥殘傷

仁宗睿皇帝御製詩初集一部計三十本尙臺上設

三羊綠玉山子一件紫檀座另存 九江瓷五孔瓶一對

九江瓷雙耳小太平罇一對一耳殘傷

洋瓷天竺芙蓉盆景一對上嵌銅珠瑯葉各色石花頭花卉枝葉不全

玉盆景一對上嵌綵擬各色石花頭花卉枝葉不全銅珠瑯座

一統花一件擬或擬玉葉花卉一枝草本玉葉天竺花卉一枝珊瑚珠十三箇貼金

地鋪涼蓆一塊 紅地黑花氈一塊氈後廊面北貼 油畫一張有破處左右貼

仁宗睿皇帝御筆字橫披二張蟲蛀破南柱上挂

紫檀邊絹心董誥字塞山大獵詩挂屏一對北柱上挂

仁宗睿皇帝御筆字挂屏二件

有板給紗簾五架兩黃破爛 有板給紬簾四架兩黃破爛東西門貼

魏鶴齡畫山水二張蟲蛀東暖閣挂 春納給簾一件舊別做

有板氈簾三架蟲蛀糜爛 單紗簾一件彭善 藍紗簾二架破

黃布拾窗簾一件 銅嵌瑯海晏河清書燈一件 花梨木矮桌一張拔縫
 洋氈拾空單一件 洋氈桌套一件 榆木淨面小桌一張拔縫
 楠木枕二張 青緞褥墊二件破爛 填漆高香几一件殘傷漆開
 紅氈心青緞邊枕墊一件蟲蛀 楠木小別橙二張花牙不全隨
 葛布套二件 錦套二件蟲蛀破爛 青緞坐褥一件破
 花氈氈褥一件蟲蛀破爛 春袖拾帳一件 藍紗簾一件
 青緞月緞枕大小二件 繡花香袋八挂 定子香佩四挂
 乳袖瓷雙管瓶一件 雕木仙人一件紫檀座 青綠銅雙環瓶一件紫檀座
 紫檀嵌玉插屏一件花牙不全 畫三軸永瑤二軸胡桂一軸 雲鶯二分
 榆木椅六張邊框不全 大玻璃插屏鏡一對 小轎一乘漆有裂處黃
 玻璃三塊 雲鶯斗二分 弘胙畫一張 玻璃一塊
 紫檀邊圍屏一架計五扇 花梨木肩輿十一張邊框不全
 徐呈祥畫瑞錦驢馬圖一軸 徐呈祥畫履安驢馬圖一軸東暖閣南北窗共安

玻璃十二塊 西暖閣南窗安 玻璃六塊 洋漆炕桌一張 漆逆裂殿内貼掛

文宗顯皇帝御筆字激心正性匾一面

心中無一事匾一面 字對四副 福字一張 壽字一張

五福壽字挂屏一件

雲山勝地は此一廓中最北の地を占め、三十六景の第八に擧げられてゐるが、珍しい二層樓で、屋内に梯階なく、樓上には庭前の磊々たる奇岩を踏んで登るやうになつてゐる。圖詩には、高樓北嚮俯瞰群峰、雲氣秀蔚と見えてをり、屋後は松林を隔て、湖水を望み、亭々たる喬松の梢は北窓の楣檐を摩して、四時颯颯の清響を絶えず、遠く目を放てば、紫明の山川眉宇に迫り來つて、山莊の勝觀半ばは一瞬の中に在る。而して樓上には持佛堂たる蓮華室が在る。清冊に擧げられた陳設は左の通りである。

樓五間樓上簷裏面北挂

聖祖仁皇帝御筆雲山勝地匾一面 撤下東牆貼

仁宗睿皇帝御筆中秋帖子詞字一張雨漬傷字面東門斗貼

仁宗睿皇帝御筆詩字一張破門裏斗上貼

仁宗睿皇帝御筆得雨詩字一張蟲蛀破西牆貼

仁宗睿皇帝御筆八月七日詩字一張字傷假門左右貼

仁宗睿皇帝御筆秋雨詩山樓晚坐詩字二張蟲蛀門斗上貼

仁宗睿皇帝御筆丙子中秋帖子詞詩字一張破裂

程琳畫一張雨漬風碎款無存斗上貼

仁宗睿皇帝御筆卽事有感詩字一張蟲蛀破東牆貼

仁宗睿皇帝御筆七言字對詩字挑一分字傷下設

紫檀琴桌一張殘傷不全上設 青綠銅花瓶一件內插木靈芝一枝

仁宗睿皇帝御製全史詩一部計三十二本套無存

北窓安玻璃一塊東牆貼

仁宗睿皇帝御筆玉申中秋帖子詞字一張字傷裂西牆貼

仁宗睿皇帝御筆設厯養馬書事橫幅字一張雨淚面南挂

聖祖仁皇帝御筆七言詩字橫披一件雨黃下設

床一鋪齊整上設 紅白氈二塊蟲蛀 紅洋氈二塊蟲蛀一塊

黃江綉繡花坐褥靠背迎手一分兩黃 黃蟒氈坐褥套一件蟲蛀

仁宗睿皇帝御製勤政論墨刻手卷一卷

仁宗睿皇帝御製喜雨山房記墨刻手卷一卷鐵保字木匣盛

紅雕漆痰盒一件 竹股屏一柄董誥字方琮畫

仁宗睿皇帝御製南苑六園詩墨刻手卷一卷蟲蛀

紫檀嵌玉如意一柄 棕竹嵌玉長方盒一對鑲嵌不全內盛 冊頁二冊

玉玩器四件 霽紅瓷小盆景一對木座鑲嵌不全 綠玉鱸瓶盒三件均有座

中秋嘉瑞桂序昇平手卷二卷紫檀玻璃罩嵌不全 紫檀鑲嵌匣一對匣散卸不全內盛

永璞字冊頁二冊 黃楊木筆筒一件內插 竹筆二隻

山渣如意一柄布傷 竹股屏一柄金土松字袁瑛畫 嵌玉小插屏一件散卸不全

漢夔龍奩一件紫檀座 哥審瓷小膽瓶一件紫檀座 玉硯一方嵌有瑕玉匣盛

三彩瓷水盂一件銅匙紫檀座 玉麟虎墨床一件紫檀座隨紅墨一錠

墨刻妙果圓光一冊案下 玉荷葉洗一件紫檀座 紫檀鑲嵌匣一對全銀嵌不

高宗純皇帝御製四季詩冊頁四冊劉權之字

玉果盃一件

仁宗睿皇帝御製養心殿墨刻冊頁一冊桂芳字蟲蛀傷折

仁宗睿皇帝御筆慎刑論墨刻冊頁一冊蟲蛀傷折

仁宗睿皇帝御筆息訟安民論墨刻頁一冊蟲蛀傷折

仁宗睿皇帝御製全史詩一部計四本

仁宗睿皇帝御製養正圖讀一冊蟲蛀傷折

仁宗睿皇帝御製嗣統述聖詩一部計二本坎尙下設

填漆椅四張漆裂有黏缺處 黃緞繡花墊四件鈔舊破

羊毛花毯一塊蟲蛀破方尙上貼 沈慶蘭山水畫一張破爛不全

藍緞繡金墊四件

欽定秘殿珠林石渠寶笈三編一部抄本計二十八套單外面東貼

馮寧畫一張蟲蛙破下設 半圓桌一張殘傷上設

古銅三足鐘一件紫檀座散卸 紫檀嵌玉璧一件座散卸

青花白地瓷蓋罐一件紫檀座

紫檀邊松筠恭進絹地安駿黃馬圖挂屏一件微破門斗面東貼

仁宗睿皇帝御筆述志誌字一張蟲蛙門裏斗上貼

張舒畫一張破碎不全 紫檀香几一件 木靈芝一枝

青綠銅三足鼎一件紫檀座 木靈芝一枝

皇朝通典一部計四十八本下設 青綠銅瓶一件木座散卸

青綠銅有蓋甕一件木座 青綠銅文筆一件木座散卸無存罩上中挂

仁宗睿皇帝御筆七言詩字橫披一件

床一鋪齊整上設繡花洋氈一塊 黃江紉繡絲坐褥靠背迎手一分原沽

黃帶龜坐褥套一件蟲蛀 填漆痰盒一件 竹股扇一柄 繪給字畫上 畫窗臺上設

仁宗睿皇帝御製守成論墨刻手卷一卷

紫檀嵌玉如意一柄 黃鍍畫塞山大獵圖手卷一卷紫檀盒盛

紫檀嵌銅片匣一件內盛

仁宗睿皇帝御製普陀宗乘之廟瞻禮記事詩一冊曹振庸字傷折

青花白地瓷瓶一件

鍍金鈿翠一統青一件 上嵌珊瑚珠三串計九十箇青綠白石山子三件銅鍍金鑲玉葉鑲

玉槓頭一件紫檀座 鑲嵌不全 青花白地瓷花插一件紫檀座

木蘭記一冊紫檀鑲嵌匣盛鑲嵌脫落 玉鶴一件紫檀座

哥窰瓷菊花式盞一件紫檀座

仁宗睿皇帝御製巡幸避暑山莊木蘭詩一冊 朱珪字紫檀鑲嵌蓋匣盛

紫檀嵌玉妝盒一對鑲嵌不全內嵌卸一件 給袖籠三件破帽

硬板給袖籠一架破南窗櫺柱挂

仁宗睿皇帝御筆詩字小挂屏一件

欽定全唐文一部計一百套

青綠銅獸面雙環三帶罇二件花梨木座缺傷 青綠銅出戟鶴鹿罇一件楠木座散卸無存

青綠銅獸耳雙環罇一件紫檀座 古銅異獸方罇一件紫檀座

青綠銅四喜獸面罇一件紫檀座 青綠銅雙耳罇一件花梨木座再查

古銅獸面雙環罇一件花梨木座再查 青綠銅蠶紋花囊一件銅磨紫檀座散卸

青綠銅雙獸耳多乳罇一件紫檀座西間單外面東挂

猶樓上の西邊の一室は蓮華室と呼ばれ佛堂である。熱河志には樓之西楹奉佛像、高宗御題曰蓮花室と出てゐる。其陳設は左の通である。

高宗純皇帝御筆蓮華室匾一面撤下微破南貼

弘擘畫山水一張無款蟲蛀破碎

高宗純皇帝御題丁觀鵬畫像佛十七軸完整地平板上鋪

羊毛花毯一塊開線破 涼蓆一塊蟲蛀破

佛說大乘無量義經一冊並諸字紫檀匣盛匣缺牙 紫檀嵌牙瓶插嵌玉花一對散卸

青玉佛一尊庫上嵌珠子一顆約一錢重在內嵌背光座玻璃破 銅佛一尊 青綠銅如意一柄

梳椰木鉢一件紫檀座 小玉香筒二件紫檀座散卸無存 青玉鉢一件有瑕紫檀座

福海玉盤一件內盛 扎古扎牙念珠一盤珊瑚佛頭塔松石記念內庫存

樹根桃枝一件紫檀座

高宗純皇帝御筆菩提葉箋心經一冊

高宗純皇帝御筆妙法蓮華經一部蟲銹字傷計七册左右設

紫檀六方杌二張牙子缺短 銅佛二尊內一尊佛頭鑲嵌脫落紫檀龕玻璃門左右設

青綠銅獸面雙環罇一件木座裂 紫檀邊腿漆面圓桌二張有裂處隨

紅洋氈心青緞邊桌套二件蟲銹左桌上設

佛說大乘聖吉祥持世經一冊錢汝誠書徵蟲銹紫檀嵌玉盒盛

青綠銅鉢一件紫檀座 玉版羅漢插屏一件紫檀座

高宗純皇帝御書楞嚴經五册蟲銹

碧玉海晏河清書燈一對開黏紫檀座散卸 凍青瓷龕一座內供

沉香佛一尊 銅佛一尊紫檀六方龕玻璃門開黏

高宗純皇帝御書陀羅泥經綠玉版四片紫檀盒盛

高宗純皇帝御筆字樹根鉢一件口開黏

紫檀嵌玉珮冊頁匣一件 樹根如意一柄 銅珞珈燠鑪一件花梨木座

銅鐵阡大小二隻殘傷 青綠銅鑪一件木蓋頂開黏檀木座

尙樓下諸室の陳設は左の通である。

樓下東間靠山牆設

高宗純皇帝御筆黑漆地泥金字圍屏一架漆裂計十二扇座帽無存

床一鋪齊整上設 紅洋氈一塊蟲蛀 紅緞邊涼蓆一塊雨漬

金花緞床刷一件雨漬 黃緞織金龍坐褥靠背迎手一分釐

黃紬空單一件 葛布套一件 青緞靠背迎手三件雨漬

黃鶴氈套一件雨漬 花倭絨一塊 黃緞繡花坐褥靠背迎手一分

紫檀嵌玉如意一柄開黏 檀香鑲嵌萬壽如意一柄殘傷

棕竹嵌玉鳩杖一件 紅雕漆痰盒一件頂開黏 痒撓一件蟲蛀

容鏡一面 扇一柄張照字弘旸畫 手鞞雙針表玻璃鏡一面有傷處不全

仁宗睿皇帝聖駕東巡詩一冊蟲蛀

揚風自鳴鐘一座 玉獸面雙環扁瓶一件口黏傷紫檀座

紫檀嵌玉冠架一件殘傷 楠漆香几一件上設

玉鎊瓶盒一分銅匙筋紫檀座 淨塵一分計三件 玉果盤一件紫檀座

黑漆嵌玉玲瓏燈一對鑲嵌不全內插 紫檀嵌玉如意二柄開黏

漢銅柳葉燭一件紫檀座 玉寶三方紫檀匣盛 紫檀匣一件內盛

吳省蘭字冊頁一冊 瑤臺仙祝一對隨香几殘傷不全對面挂

洋銅嵌表烏籠一對殘缺東西罩上挂

仁宗睿皇帝御筆字橫披九件雨漬風碎南北設

紫檀藤心椅四張內二張散卸 黃緞繡花墊四件原沾

裁誠花毯一塊蟲蛀 羊毛花毯一塊蟲蛀西間戲臺地鋪

羊毛花毯一塊蟲蛀 畫軸軟欄杆一件破爛西板騎貼

仁宗睿皇帝御筆七言詩字橫披一張

仁宗睿皇帝御筆門字對一副雨漬風碎裂左右門斗上貼

仁宗睿皇帝御筆字停雲觀象匾二張雨漬風碎裂字傷

紅油松木高桌二張油漆裂 緯絲桌圍二件 紅緞繡金椅墊四件

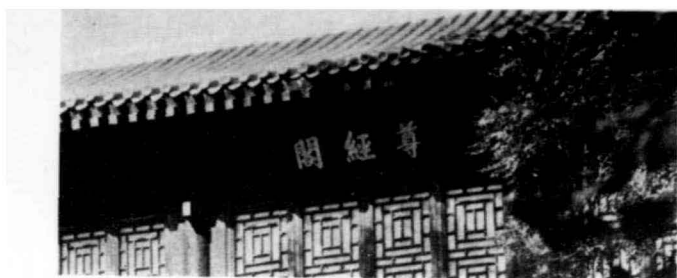
錦緞袷簾二件破綻 紫檀燄燈四件牙子傷不全隨 錫盤四件

射光燈二對紫檀架座牙子傷不全 羊角燈罩二件破碎 雨搭三架

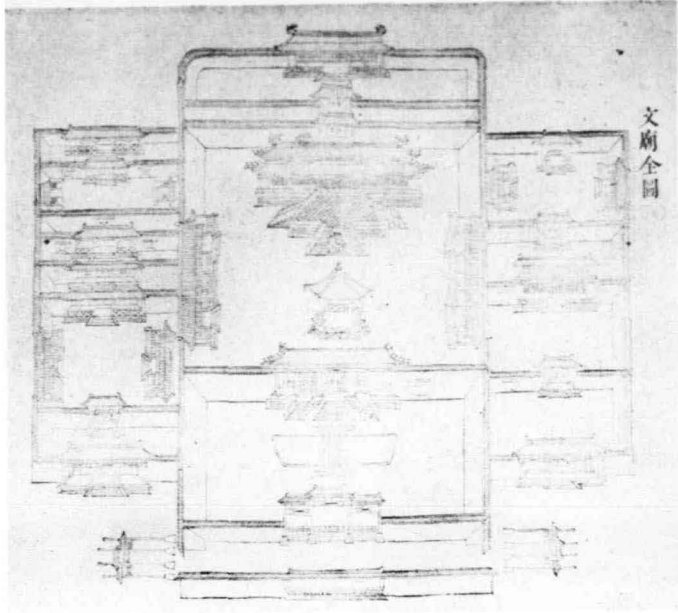
甌竹簾六架內甌籬蟲蛀破爛

以上澹泊敬誠四知書屋煙波致爽雲山勝地の諸殿に陳設せられたる調度類について述べて來たが此四殿は避暑山莊の心核であつて聖祖以來至尊の日常起臥の處である。今その手澤を存するものが盡く散逸し去つて唯殿宇を存するに過ぎないが其結構の簡素にして高雅なるさすがに舊主の風格を想見せしむるに足る

ものがある。況んや幾多の歴史的事件―蒙古諸王の朝覲、殊に兇雄策凌阿睦撒納等の参朝の如き、英國王の特使マカートネー伯爵の來覲、班禪喇嘛の飛錫等數へ來れば諸多の事件が、此一小區と係りがあることを思ふと、松影婆娑たる庭上を徘徊して懷古の情に堪へざらしむるものがあらう。



尊經閣扁額
乾隆帝御筆



文廟全圖

圖全堂倫明閣經尊廟文載所志河熱



閣經尊



部内閣經尊



部內閣經尊



門星櫺



大成門



御碑亭



大成殿



大成殿內部

尊經閣

尊經閣は承德中央大街の西に盡くるところ、文廟の東隣に在る。本來文廟の一部で熱河志卷七十三に掲げられた文廟全圖に依ると、文廟を中心にして東に尊經閣、西に明倫堂と呼ぶ學校の布置が示されてゐる。此結構は多少の廢頽は免れぬとしても大體其儘に現存してゐるといつてよい。今熱河志の記載を借りて稍詳しく廟宇の次第を述べると

文廟在承德府治之東。東西牌坊各一座。向東額曰教垂萬世。曰道洽八埏。向西額曰執中舍和。曰參天兩地。

即ち文廟は舊承德府署今の承德縣公署の東に隣し、門前の中庭には東西に牌坊があり、前面に影壁がある。東牌坊に掲げられた匾額には教垂萬世と道洽八埏の文

字があり、西牌坊には執中舍和と參天兩地の二額がある。次に

中樞星門牌樓一座。額曰化成久道。內泮池一。大成門一座。內碑亭。

とあるやうに、化成久道の額が懸つてゐる正面の樞星門を溝ると、泮池泮橋があり、之を渡ると大成門がある。大成門を入ると碑亭があり正面に大成殿、左右に東西兩廡がある。碑亭には前面に乾隆御撰の熱河文廟碑記、後面に同じく御製の熱河承德記事八韻を刻した巨大なる石碑が巔首の上に立つてをり、大成殿の左右壁にも御製十全記、同補詠戰勝廓爾喀圖序、同平定臺灣告成熱河文廟碑記、同集石鼓文章、製鼓重刻序等を刻した石が簇め込まれてゐる。大成殿については

大成殿五楹。正位奉 至聖先師孔子神位。御書額廣大中和。聯曰有聞必先冠

古今而垂教化。無思不服合内外以振文章。四配祀復聖顏子。宗聖曾子。述聖

子思子。亞聖孟子。十二哲。祀先賢閔子冉子宰子(下略)

東廡十一楹。祀先賢蘧瑗、澹臺絕明、原憲(下略)

西廡十一楹。祀先賢林放、宓不齊、公冶長(下略)

其崇聖祠五楹。祀肇聖王木金父公、裕聖王祈父公、(下略)

大成殿は高約三尺の石壇上に建ち、御筆、廣大中和の額が挂つており、前に月臺旁に焚帛爐がある。殿内には正面に孔子の神位が祀られ、左右に四聖及び十二哲が合祀せられてゐる。又東西兩廡にも先賢五十の神位が並んでゐる。大成殿の北にある崇聖祠は孔子の祖考を祀るところで、併せて顔子、曾子、孟子の祖考をも配享してゐる。

以上は文廟の一郭であるが、其東西に附郭があり、東郭は

「文廟東首。御座一所。宮門一座。垂花門一座。尊經閣五楹。神厨一座。神庫一座。犧牲亭一間」。

とありて、南門を入ると更位殿があり、次で垂花門を潜ると尊經閣がある。二階建てで四庫閣と略同じ構造である。尙其背後に神厨と祭器庫とがある。西の一郭は「文廟西首。學門一座。垂花門一座。東西齋房各七楹。東曰進德。西曰日新。西曰修業。曰時習。明倫堂五楹。教授署一所」。

所謂承德府學であつて子弟を教養する所である。即ち其南門を入り更に垂花門を潜ると正面に講堂明倫堂があり、左右に進徳、日新(東側)修業、時習(西側)の各齋房がある。之は教場である。尙其奥に照應正廳等があるが、講官日直の房室である。

以上述べた所によつても分る通り、熱河の文廟は其結構に於ても又其規模に於ても、滿洲國に現存する文廟のうちで恐らく最完備したものであると斷言して宜いと思ふ。況んや乾隆四十四年に祭器として御賜せられた周代銅器十件と數百點に上る祭器樂器とを具備する點に於ては他の追従を容さないものがある。更に尊經閣に架蔵せらるゝ殿板數萬冊の存することは奉天故宮内に於ける文溯閣と相對して、有清一代の文運を物語る紀念塔であり、獨り熱河の誇であるのみならず一國の至寶であると斷言して憚らない。依て茲に文廟建置の由來と尊經閣藏書のことについて尙少しく記述しておかうと思ふ。

抑々避暑山莊が熱河の地に經營せられたのは前にも屢々述べた通り康熙四十二年であるが、其頃の承德は全く荒涼たる山間の僻村に過ぎなかつたことは蔣廷

錫の勅建開仁寺碑康熙五十四年建の一節に

「憶昔過熱河。深林芳草。開茅屋數十家。自翠華歲至四方之民提携捧負而來者、

駢肩疊跡。數年間遂成都會。」

と見え、又乾隆帝の熱河志序にも

「皇祖詩之聚民至萬家。蓋筭路之際。人煙稀少。後乃閭閻日以富。耕桑日以闢。

至於今將百年。屹爲都會。」

とあるに見ても想像に餘ある。而して雍正元年に此地に熱河廳が開かれて、其總管(後都統に改む)が置かれ、翌二年更に熱河縣管が置かれて該地方の民政が布かるるやうになり、更に十年に至つて承德州と改められ、次で乾隆四十三年に承德府に升され、其知府は熱河兵備道臺と共に平泉州及び灤平、豐寧、建昌、朝陽、赤峰の五縣を管理したのである。それが民國になつてから府州の制が廢せらるゝと共に承德縣となつて今日に及んでゐる。

斯くの如く行宮の造營と寺廟の建立によつて、山間の一小部落から俄かに殿

富なる衢區に變じたので學校の設置も自ら問題となつたのであるが、その事は、乾隆御撰の熱河文廟碑記に詳しく出てゐるから之に譲らう。

丙申夏駐蹕熱河避暑山莊。曹秀先以禮部尙書扈從。幾暇召見及時政。秀先云。臣忝卿也。在職言職。以爲此處宜興學校以造就士。朕曰。俞哉亦其時矣。於是乎有設學之旨。於是乎有加額之恩。學校既設則文廟亟宜建。乃命相地伐材。卜吉鳩工。宮牆泮水殿廡禮樂一如制。越二年己亥夏。朕以來巡親釋奠而落成之。夫熱河固自古闕塞以外荒略之區也。雖金遼有興州之稱。然旋學旋廢。建置沿革率不可考。而況有阜比之傳絃誦之聲哉。是以我皇祖每年避暑於此。亦不過名之曰山莊。故有聚民至萬家之句。蓋於禮樂興。未免存待以百年之意。今則耕桑日以闢。戶口日以滋。以幅員計之。不啻數千里。而版籍或逾十萬焉。此而無學。以囑民迪俗。豈宜祖欲。揚聖化之道。今西域烏魯木齊等處。率置郡縣。立學校。以此較彼。爲尤近矣。則茲文廟之建。於時於地。胥不可緩。亦不待人之請而後行。稱之曰熱河文廟者。今雖升之曰承德府。從其朔紀其因。

也。昔蘇軾作韓愈碑記云。公之神在天下。如水之在地中。予謂韓愈因文見道。我夫子體道垂文。韓愈之所因者。皆夫子之所垂而見。猶待率行。體則其本也。且水在地中。尙待求而得之。我天子乃天之經地之義。山之峙海之淵。無日不在。人人心目之中。範圍曲成而不遺。豈待穿鑿求之而後得。然則木鐸之音。熟謂不可。覺斯民於闕外荒略之區也哉。

尙文廟建設の事宜及び工程が乾隆四十一年十月の禮部等部議准熱河建立營宮事宜並びに同十一月管工程處尙書英廉等の奏議に詳しく出てゐる。而して乾隆帝は同四十四年五月に親臨して釋奠の禮を行ひ、特に内府所藏の周銅器十件を祭器として進獻せられ、更に六月には禮部尙書曹秀先の請に由つて聖祖詩文全集世祖詩文全集、皇上御製文集、御製詩初二三集以下九十二部三百七十六函を尊經閣に頒藏せられたのである。之等の圖書は先年文教部の依囑により杉村勇造氏の調査せられた所によると多少の増減があるが、能く保存せられてゐる。就中圖書集成一萬冊の藏儲は特筆に値するものである。猶此他に乾隆御筆の平定臺灣告成

熱河文廟碑記と熱河文廟碑記を藏してゐたが、之は現在寶物館に陳列せられてゐる。尙一つ特記しておきたいことは文廟内に承德縣志の版木が貯藏せられてゐることである。之は欽定熱河志の後をうけて、之より後るゝこと五十年、道光六年から五年を閲して完成せられた地方志である。詔諭、天章、巡典、山莊、行宮、圍場に始まりて以下昇度雜志に至る。卷を分つこと八十六。知承德知府事から熱河兵備道に歴任した海忠の撰である。模板のこゝに藏せらるゝのも當然であらう。

終りに杉村勇造氏の調査に係る尊經閣に現在する善本の書目を掲げて置く。

此中 * 印を附したのは熱河志卷七十四に、乾隆四十四年六月禮部尙書曹秀先奏請熱河文廟落成頌發として掲げられてゐるものである。従てその以前の收藏にかかるものであることは確かである。

熱河尊經閣所藏善本書目（大同二年八月調）

一 欽定古今圖書集成一萬卷目錄四十卷 清蔣廷錫等奉勅撰 雍正四年鮑活字刊 開花紙原裝

五七六函五〇二〇冊

二 欽定十三經注疏 乾隆四年校刊 開花紙原裝

一七函一一五冊

* 周易注疏十三卷附略例一卷 魏王弼注 唐陸德明音義 孔穎達疏

一函五冊

* 尚書注疏十九卷 漢孔安國傳 唐陸德明音義 孔穎達疏

一函六冊

* 毛詩注疏三十卷附毛詩譜一卷 漢毛亨傳 鄭玄箋 唐陸德明音義 孔穎達疏

二函一二冊

* 周禮注疏四十二卷 漢鄭玄注 唐陸德明音義 賈公彥疏

二函一四冊

* 儀禮注疏十七卷 漢鄭玄注 唐陸德明音義 賈公彥疏

一函一〇冊

* 禮記注疏六十三卷 漢鄭玄注 唐陸德明音義 孔穎達疏

二函二〇冊

春秋左傳注疏六十卷 晉杜預注 唐陸德明音義 孔穎達疏

二函二〇冊

春秋公羊傳注疏二十八卷 漢何休注 唐陸德明音義 徐彥疏

一函八冊

春秋穀梁傳注疏二十卷 晉范甯集解 唐陸德明音義 楊士復疏

一函六冊

孝經注疏九卷 唐玄宗御注 陸德明音義 宋邢昺疏

一函一冊

論語注疏二十卷 魏何晏集解 唐陸德明音義 宋邢昺疏 漢趙岐注 宋孫奭音義并疏

一函四冊

孟子注疏十四卷 漢趙岐注 宋孫奭音義并疏

一函六冊

爾雅注疏十一卷 晉郭璞注 唐陸德明音義 宋邢昺疏

一函三冊

三 御定仿宋相臺岳氏本五經 乾隆四十八年校刊 開花紙 原裝有避署山莊之璽

一二函七〇冊

周易王注十卷 魏王弼注

尚書孔傳十三卷 漢孔安國傳

毛詩鄭箋二十卷 漢毛亨傳 鄭玄箋

春秋經傳集解三十卷 晉杜預集解

禮記鄭注二十卷 漢鄭玄注

- 四* 御纂周易述義十卷 清吳鼎等奉勅撰 乾隆二十四年刊 花紙原裝 一函四冊
- 五* 御纂詩義折中二十卷 清陳兆崙等奉勅撰 乾隆二十四年刊 花紙原裝 一函八冊
- 六* 御纂春秋直解十二卷 清梁錫祺等奉勅撰 乾隆二十三年刊 白紙原裝 一函八冊
- 七* 日講易經解義十八卷 清牛鈕等奉勅撰 康熙二十二年刊 花紙原裝 一函八冊
- 八* 日講書經解義十三卷 清庫勒納等奉勅撰 康熙十九年刊 花紙原裝 一函七冊
- 九* 日講禮記解義六十四卷 清鄂爾泰等奉勅校 乾隆十四年刊 原裝 二函一六冊
- 一〇* 日講春秋解義六十四卷 總說一卷 乾隆二年刊 原裝 二函一六冊
- 一一* 孝經集注一卷 清世祖御注 順治十三年刊 一函一冊
- 一二* 孝經衍義一百卷 清聖祖御注 康熙二十九年刊 原裝 三函三〇冊
- 一三* 孝經集注一卷 清世宗御注 雍正五年刊 開花紙原裝 一函一冊
- 一四 欽定三禮義疏 清諸錦等奉勅撰 乾隆十九年刊 原裝 二五函一八二冊
- * 欽定周官義疏四十八卷首一卷
- * 欽定儀禮義疏四十八卷首二卷

欽定禮記義疏八十二卷首一卷

一五 御纂春秋直解十二卷 清梁錫與等奉勅撰 乾隆二十三年刊 開花紙原裝 一函八冊

一六* 欽定詩經傳說彙纂二十一卷首二卷 清王鴻緒等奉勅撰 雍正五年刊 開花紙原裝 四函二四冊

一七 欽定詩經傳說彙纂二十一卷首二卷 清王鴻緒等奉勅撰 雍正五年刊 開花紙原裝 無函二四冊

一八* 欽定書經傳說彙纂二十四卷首二卷 清王項齡等奉勅撰 雍正八年刊 開花紙原裝 無函二四冊

一九* 欽定春秋傳說彙纂三十八卷首二卷 清王拱辰等奉勅撰 康熙六十年刊 開花紙原裝 二函一二冊

二〇 欽定春秋傳說彙纂三十八卷首二卷 清王拱辰等奉勅撰 康熙六十年刊 開花紙原裝 四函二四冊

二一 欽定篆文六經四書 清李光地等奉勅撰 康熙年間刊 開花紙原裝 二函一四冊

周易一冊 尙書一冊 毛詩二冊 春秋二冊 周禮二冊

儀禮三冊 大學中庸一冊 論語一冊 孟子二冊

二二 御定石經乾隆年間拓本原裝 四〇函二〇六冊

周易 尙書 詩經 周禮 儀禮 禮記 左傳 公羊傳

穀梁傳 論語 孟子 孝經 爾雅 附高宗御製文

二三* 御定康熙字典四十二卷 清張玉書等奉勅撰 康熙五十五年刊 開花紙原裝

四函三八冊

二四* 御定佩文韻府一百六卷 清蔡升元等奉勅撰 康熙五十年刊 開花紙原裝

二〇函九五冊

二五 欽定西域同文志二十四卷 清傅恆等奉勅撰 乾隆二十年刊 白紙原裝

一函八冊

二六* 欽定同文韻統六卷 清莊親王允祿等奉勅撰 乾隆十五年刊 白紙原裝

一函四冊

二七 御製滿洲蒙古漢字三合切音清文鑑三十一卷 清阿桂等奉勅撰 乾隆五十七年刊 白紙原裝

四函三二冊

二八* 蒙古清文鑑 乾隆年間刊原裝

四函二九冊

二九* 御製增訂清文鑑三十二卷 清傅恆等奉勅撰 乾隆三十八年刊 白紙原裝

八函四八冊

三〇 欽定二十四史乾隆四年校刊開花紙原裝

八三函七二二冊

* 史記一百三十卷 漢司馬遷撰 宋裴翊集解 唐司馬貞索隱 張守節正義

四函二六冊

* 漢書一百二十卷 漢班固撰 唐顏師古注

四函三二冊

* 後漢書一百二十卷 宋范曄撰 唐章懷太子賢注 宋晉司馬彪撰 梁敬劉昭注

四函二八冊

- * 三國志六十五卷 晉陳壽撰 宋裴松之注
二函一四冊
- * 晉書一百三十卷 唐房喬等撰
三函三〇冊
- * 宋書一百卷 梁沈約撰
四函二四冊
- * 南齊書五十九卷 梁蕭子顯撰
一函八冊
- * 梁書五十六卷 唐姚思廉撰
一函八冊
- * 陳書三十六卷 唐姚思廉撰
一函六冊
- * 魏書一百十四卷 北齊魏收撰
三函二四冊
- * 北齊書五十卷 唐李百藥撰
一函八冊
- * 周書八十五卷 唐令狐德棻撰
一函八冊
- 隋書八十五卷 唐魏徵長孫無忌等撰
二函二四冊
- * 南史八十卷 唐李延壽撰
二函二〇冊
- * 北史一百卷 唐李延壽撰
三函二四冊
- * 舊唐書二百卷 五代劉昫撰
六函六〇冊

- * 唐書二百二十五卷附釋普二十五卷宋歐陽修等撰 五函五〇冊
- 舊五代史一百五十卷 宋薛居正等撰 乾隆四十九年刊 四函二四冊
- * 五代史七十四卷宋歐陽修撰 一函一〇冊
- * 宋史四百九十六卷元托克托等撰 一〇函一〇〇冊
- * 遼史一百十五卷元托克托等撰 一函八冊
- * 金史一百三十五卷元托克托等撰 三函二四冊
- * 元史二百十卷明宋濂等撰 五函五〇冊
- * 明史三百三十二卷清張廷玉等奉勅撰 一二函一一二冊
- 三一 欽定明史三百三十二卷 清張廷玉等奉勅撰 開花紙原裝二十四史本 一二函一一二冊
- 三二 御定補後漢書年表十卷 宋龔方撰 乾隆年間刊白紙原裝 一函六冊
- 三三 * 康熙御批通鑑綱目正續編康熙四十六年刊原裝 八函五〇冊
- 三四 康熙御批通鑑綱目正續編康熙四十六年刊原裝 八函四〇冊
- 三五 乾隆御批通鑑輯覽一百二十卷乾隆三十二年刊白紙原裝 六函六〇冊

三六 清漢文平定準噶爾方略各一七一卷 清傅恒等奉勅撰乾隆三十七年刊

二四函二〇〇冊

三七 平定兩金川方略一百三十六卷首八卷紀略一卷 清王昶等奉勅撰嘉慶五年刊白紙原裝

八函六四冊

三八 欽定平定教匪紀略四十二卷首一卷 清姚祖同等奉勅撰嘉慶年間刊白紙原裝

四函四四冊

三九 欽定平定臺灣紀略六十五卷首五卷 乾隆五十二年刊白紙原裝

六函三六冊

四〇 親征平定朔漢方略四十八卷 清溫達等奉勅撰康熙四十七年刊白紙原裝

四函二四冊

四一 欽定剿捕臨清逆匪紀略十六卷 清永保等奉勅撰乾隆四十六年刊白紙原裝

一函六冊

四二 欽定廓爾喀紀略五十四卷首四卷 乾隆六十年刊白紙原裝

四函三二冊

四三 太宗大破明師於松山之戰書專一卷 清漢文原裝

一函一冊

四四 欽定滿洲源流考二十卷 清平恕等奉勅撰乾隆四十二年刊白紙原裝

無函八冊

四五 欽定熱河志一百二十卷 清和坤等奉勅撰乾隆四十四年刊白紙原裝

無函四八冊

四六 增修皇輿表十六卷 清揆叙等撰乾隆四十三年刊原裝

四函二四冊

- 四七 欽定日下舊聞考一百六十卷 清寶光緒等奉勅撰 乾隆四十三年刊白紙原裝 八函四八冊
- 四八 西湖志纂一五卷 乾隆二十七年增輯開花紙原裝 無函五冊
- 四九 畿輔安瀾志五十六卷 清王履泰撰 嘉慶十三年聚珍版刊原裝 六函三六冊
- 五〇 續琉球國志略五卷 清齊璽等奉勅撰 嘉慶年間聚珍版刊原裝 一函六冊
- 五一 皇清職貢圖九卷 乾隆年間刊原裝 有避身山莊之璽 無函九冊
- 五二 御製盛京賦一卷 乾隆年間刊開花紙原裝 一函一冊
- 五三* 清漢文聖諭廣訓各一卷 世宗御撰 雍正二年刊原裝 一函二冊
- 五四 高宗純皇帝聖訓三百卷 嘉慶十二年刊白紙原裝 五〇函三〇〇冊
- 五五* 世宗硃批諭旨不分卷 雍正十年刊開花紙原裝 一八函一一二冊
- 五六 欽定歷代職官表七十二卷 清紀昀等奉勅撰 乾隆四十五年刊白紙原裝 六函三六冊
- 五七* 通典二百卷 唐杜佑撰 乾隆十二年校刊原裝 六函三六冊
- 五八* 通志二百卷 宋鄭樵撰 乾隆十二年校刊原裝 二〇函一一八冊
- 五九* 文獻通考三百四十八卷 元馬端臨撰 乾隆十二年校刊原裝 一六函八八冊

- 六〇 欽定續通典一百五十卷 清曹仁虎等奉勅撰 八函六四冊
- 六一 欽定續通志六百四十卷 清曹仁虎等奉勅撰 二四函一九二冊
- 六二 欽定續文獻通考二百五十卷 清曹仁虎等奉勅撰 一六函一二八冊
- 六三 皇朝通典一百卷 清曹仁虎等奉勅撰 無函四八冊
- 六四 皇朝通志一百二十六卷 清曹仁虎等奉勅撰 六函四八冊
- 六五 皇朝文獻通考三百卷 清曹仁虎等奉勅撰 二二函一七六冊
- 六六* 欽定大清會典一百卷 清允禩等奉勅撰 四函二〇冊
- 六七* 欽定大清會典則例一百八十卷 清允禩等奉勅撰 一四函一〇〇冊
- 六八 欽定大清會典一百卷 清允禩等奉勅撰 四函二〇冊
- 六九 欽定大清會典則例一百八十卷 乾隆二十九年刊白紙原裝 一四函一〇〇冊
- 七〇* 皇朝禮器圖式十八卷 清彭元瑞等奉勅撰 四函一六冊
- 七一 西漢會要七十卷 宋徐天麟撰 四函二四冊
- 七二 唐會要一百卷 宋王溥撰 無函六〇冊

乾隆年間聚珍版刊原裝

- 七三 西巡盛典二十四卷 清董誥等奉勅撰 嘉慶十七年聚珍版刊原裝 四函二四冊
- 七四 康熙六旬萬壽盛典一百二十卷首一卷 清王原祁等奉勅撰 康熙五十二年刊開花紙原裝 四函四〇冊
- 七五 乾隆八旬萬壽盛典一百二十卷首一卷 清阿桂等奉勅撰 乾隆五十七年活字刊開花紙原裝 四函二〇冊
- 七六 欽定八旗通志三百四十二卷首十二卷 嘉慶四年刊 五〇函二九〇冊
- 七七 欽定八旗氏族通譜輯要不分卷 清阿桂等奉勅撰 乾隆五十七年刊白紙原裝 一函二冊
- 七八 皇清詞林典故六十四卷 清陳希曾等奉勅撰 嘉慶十年刊白紙原裝 四函三四冊
- 七九* 評鑑闡要十二卷 清劉統勳等奉勅編 乾隆三十六年刊 二函一二冊
- 八〇 評鑑闡要十二卷 清劉統勳等奉勅編 乾隆三十六年刊 一函六冊
- 八一 欽定辛酉工賑紀事三十八卷首二卷 嘉慶七年刊白紙原裝 無函二〇冊
- 八二 欽定授時通考七十八卷 清蔣溥等奉勅撰 乾隆七年刊原裝 四函二四冊
- 八三 欽定授時通考七十八卷 清蔣溥等奉勅撰 乾隆六年刊原裝 四函二四冊

- 八四 月令輯要二十四卷圖說一卷清吳廷楨撰康熙五十五年刊開花紙原裝 無函一二冊
- 八三 耕織圖乾隆年間原裝 木匣二冊
- 八六 棉花圖乾隆年間原裝 木匣二冊
- 八七 石鼓文乾隆年間拓本有古希天子等之璽 一夾板一冊
- 八八 重排石鼓文乾隆年間拓本有古希天子等之璽 一夾板一冊
- 八九 欽定四庫全書總目二百卷首四卷清紀昀等奉勅撰乾隆五十四年刊白紙原裝 一六函一四四冊
- 九〇 御纂朱子全書六十六卷清李光地等奉勅編康熙五十三年刊原裝 二函一五冊
- 九一 御纂朱子全書六十六卷清李光地等奉勅編康熙五十三年刊原裝 四函二五冊
- 九二 御製日知薈說四卷清高宗御撰乾隆元年刊開花紙原裝 一函四冊
- 九三 御纂性理精義十二卷清李光地等奉勅撰康熙五十六年刊開花紙原裝 一函五冊
- 九四 欽定授衣廣訓二卷清董誥等奉勅撰嘉慶十三年刊白紙原裝 一函二冊
- 九五 歷代三元甲子編年萬年書二卷開花紙原裝 一函一冊
- 九六 欽定協紀辨方書三十六卷清李廷驥等奉勅撰乾隆六年刊原裝 二函一五冊

- 九七 御定佩文齋廣羣芳譜一百卷 清汪顯等奉勅撰 康熙四十七年刊原裝 四函一八冊
- 九八 御定佩文齋書畫譜一百卷 清孫岳頌等奉勅撰 康熙四十七年刊原裝 無函三六冊
- 九 御定歷代題畫詩類一百二十卷 清陳邦彥撰 康熙四十七年刊原裝 無函二四冊
- 一〇〇 味經書室隨筆二卷 清仁宗御撰 嘉慶十二年刊開花紙原裝 無函二冊
- 一〇一* 欽定四書文選不分卷 乾隆四年刊開花紙原裝 三函二二冊
- 一〇二* 薩爾澹山戰書事文一卷 原裝 一函一冊
- 一〇三 古香齋袖珍史記一百三十卷 漢司馬遷撰宋裴駰等注 乾隆年間刊原裝 六函三六冊
- 一〇四 古香齋袖珍初學記三十卷 唐徐堅等撰 乾隆年間刊原裝 二函一二冊
- 一〇五 古香齋新刻古文淵鑑六十四卷 清聖祖御選徐乾學等編 乾隆年間刊原裝 六函三〇冊
- 一〇六 清寧合撰二卷 清仁宗御撰 嘉慶年間刊開花紙原裝 一函二冊
- 一〇七 御製古稀說一卷 清高宗御撰附彭元瑞恭進頌九章 乾隆年間刊白紙原裝有乾隆御覽之寶之璽 無函一冊
- 一〇八* 聖祖御製文集四十卷 清張玉書等奉勅編 康熙五十年刊原裝 二函一〇冊
- 一〇九* 聖祖御製文二集五十卷 清張玉書等奉勅編 康熙五十年刊原裝 二函一二冊

- 一一〇* 聖祖御製文集四十卷 清張玉書等奉勅開花紙改裝 二函一二冊
- 一一一* 聖祖御製文二集五十卷 清張玉書等奉勅開花紙改裝 三函一八冊
- 一一二* 聖祖御製文三集五十卷 清張玉書等奉勅開花紙改裝 三函一八冊
- 一一三* 高宗御製文初集三十卷 清于敏中奉勅開花紙改裝 二函一六冊
- 一一四* 高宗御製文二集四十卷 清梁國治等奉勅開花紙改裝 一函八冊
- 一一五* 世宗御製文集三十卷 乾隆年間刊 一函一四冊
- 一一六 仁宗御製文初集十卷 清慶桂等奉勅開花紙原裝 一函八冊
- 一一七 仁宗御製文二集十四卷 清董誥等奉勅開花紙原裝 二函一二冊
- 一一八 仁宗御製文集二卷 嘉慶年間刊白紙原裝 一函二冊
- 一一九* 高宗御製詩初集四十四卷 清蔣溥等奉勅開花紙改裝 二函一六冊
- 一二〇* 高宗御製詩二集九十卷 清蔣溥等奉勅開花紙改裝 四函三二冊
- 一二一* 高宗御製詩三集一百卷 清于敏中等奉勅開花紙改裝 八函六二冊
- 一二二 高宗御製詩初集四十四卷 清蔣溥等奉勅開花紙原裝 四函二四冊

- 一一三 高宗御製詩二集九十卷 清蔣溥二十五年奉勅編裝 八函四六冊
- 一一四 高宗御製文初集三十卷 清于敏中二十八年奉勅編裝 一函八冊
- 一一五 高宗御製詩初集四十四卷 清蔣溥二十四年奉勅編裝 二函二〇冊
- 一一六 高宗御製詩二集九十卷 清蔣溥二十五年奉勅編裝 四函四〇冊
- 一一七 高宗御製詩三集一百卷 清于敏中二十六年奉勅編裝 六函六二冊
- 一一八 高宗御製詩四集一百卷 清梁國治十八年奉勅編裝 六函四〇冊
- 一一九 高宗御製詩五集一百卷 清王杰十六年奉勅編裝 八函六二冊
- 一二〇 仁宗御製詩初集四十八卷 清慶桂八年奉勅編裝 無函三〇冊
- 一二一 仁宗御製詩二集六十四卷 清慶桂十六年奉勅編裝 無函四〇冊
- 一二二 仁宗御製詩三集六十四卷 清沈宗敬六年奉勅編裝 無函一三〇冊
- 一二三 仁宗御製詩四集一百六十卷 清吳襄五年奉勅編裝 無函六四冊
- 一二四 仁宗御製詩五集一百六十卷 清何焯六年奉勅編裝 無函四〇冊
- 一二五 仁宗御製詩六集一百六十卷 清徐養九十年奉勅編裝 二〇函九〇冊

八函六二冊函損一

一三六* 御選古文淵鑑聖祖御選徐乾學等注康熙四十九年刊花紙原裝

四函二四冊

一三七 欽定全唐文一千卷清杜埜等奉勅纂嘉慶十九年刊花紙原裝

一〇〇函七九四冊

一三八* 御製全唐詩不分卷康熙四十六年刊開花紙原裝

一二函一二〇冊

一三九 御製全唐詩不分卷康熙四十六年刊開花紙原裝

無函一二〇冊

一四〇 御定全唐詩錄一百卷清徐章等奉勅編康熙四十五年刊原裝

無函二四冊

一四一 御選唐詩三十二卷清陳廷敬等奉勅編乾隆三十二年刊開花紙原裝

二函一五冊

一四二* 御選唐宋文醇五十八卷乾隆三年刊開花紙原裝

無函二四冊

一四三* 御選唐宋詩醇四十七卷乾隆十六年刊原裝

二函二〇冊

一四四 九家集註杜詩三十六卷原裝

四函二四冊

一四五 御選四朝詩一百二十卷清張豫章等奉勅纂康熙四十八年刊原裝

一二函六〇冊

一四六 御定歷代賦彙一百四十卷外集二十卷附二卷清陳元龍等奉勅編康熙四十五年刊原裝

無函五〇冊

一四七 佩文齋詠物詩選不分卷清高輿等奉勅撰康熙四十六年刊原裝

四函三二冊

- 一四八 御製全史詩四卷 清仁宗御撰 嘉慶年間刊 開花紙原裝 無函四冊
- 一四九 御製讀尙書詩一卷 清仁宗御撰 嘉慶年間刊 開花紙原裝 無函一冊
- 一五〇 御製詠左傳詩二卷 嘉慶年間刊 開花紙原裝 無函二冊
- 一五一 御製全史詩六十四卷 清仁宗御撰 嘉慶年間刊 開花紙原裝 無函三〇冊
- 一五二 御製全韻詩不分卷 清高宗御撰 乾隆年間刊 開花紙原裝 二函五冊
- 一五三 御製月令七十二候詩一卷 清高宗御撰 乾隆年間刊 原裝 無函四冊
- 一五四 御製擬白居易新樂府一卷 清高宗御撰 乾隆年間刊 原裝 一函四冊
- 一五五 御選歷代詩餘一百二十卷 清康熙四十六年刊 原裝 四函二四冊
- 一五六* 樂善堂全集定本三十卷 清高宗御撰 乾隆二十三年刊 開花紙原裝 二函一八冊
- 一五七 樂善堂全集定本三十卷 清高宗御撰 乾隆二十三年刊 開花紙原裝 有避暑山莊乾隆御覽之寶之璽 無函一八冊
- 一五八 味餘書室全集定本四十卷 附隨筆二卷 清仁宗御撰 嘉慶五年刊 白紙原裝 無函三二冊
- 一五九 涼水傅家集八十卷 清陳弘謀訂 乾隆八年刊 開花紙原裝 二函一六冊
- 一六〇 欽定千叟宴詩三十四卷 首二卷 乾隆五十年刊 白紙原裝 六函三六冊

一六一 欽定熙朝雅頌集一百六卷首集二十六卷餘集二卷 清鐵保等奉勅纂
嘉慶九年刊原裝

無函三二冊

一六二 皇清文穎續編一百八卷首五六卷 清董誥等奉勅編
嘉慶十五年刊白紙原裝

二四函一七四冊

一六三 欽定詞譜四十卷 清王奕清等奉勅編
康熙五十四年刊開花紙原裝

無函一二冊

一六四 讀書紀數略五十四卷 清宮夢仁撰
康熙四十七年刊開花紙原裝

一函八冊

一六五* 欽定大清律例四十七卷 乾隆年間刊原裝

六函四〇冊

一六六* 大清通禮五十卷 清李玉鳴等奉勅撰
乾隆二十四年刊原裝

一函八冊

一六七 性無大全 明嘉靖壬子年余氏雙桂堂刊本

六函六〇冊

一六八 元文類明倫德堂刊本 乾隆內府裝訂

無函一二冊

一六九 大功告成冊頁 乾隆年間進呈鈔本

六冊

一七〇 熱河文廟碑記 清高宗御筆
用宋藏經紙寫

木盒一冊

一七一 平定臺灣告成熱河文廟碑文 清高宗御筆
用宋藏經紙寫

木盒一冊

一七二 平定伊犁回部戰圖 乾隆年間鈔版印巴黎版錦裝

三四葉

一七三	平定兩金川戰圖	乾隆年間銅版印錦裝	一六葉
一七四	平定廓爾喀戰圖	乾隆年間銅版印	八葉
一七五	平定苗疆戰圖	乾隆年間銅版印	一六葉
一七六	平定貴州狝苗戰圖	乾隆年間銅版印	四葉
一七七	平定臺灣戰圖	乾隆年間銅版印	一二葉
一七八	平定安南戰圖	乾隆年間銅版印	六葉
一七九	圓明園西洋水法畫	乾隆年間銅版印	二〇葉
一八〇	黃河源圖	乾隆年間內府印	五葉

合計一百八十種 一萬三千四十六冊 一百二十一葉

右のうち四五の熱河志一七〇、一七一の乾隆御筆の文廟碑記及び一七二以下一七九に至る銅板諸圖は現在寶物館に移管せられ其重なるものは陳列品中に展観せられつゝあることは已に寶物館の條下に述べた通りである。

康德九年五月十日印刷
康德九年五月十五日發行

② 額價 貳圓

編輯人 奉天 咸亨 二十三號 田源次

發行人 新京特別市大同大街二〇二號 杉村勇造

印刷人 東京市神田區美土代町十六番地 鶴誠

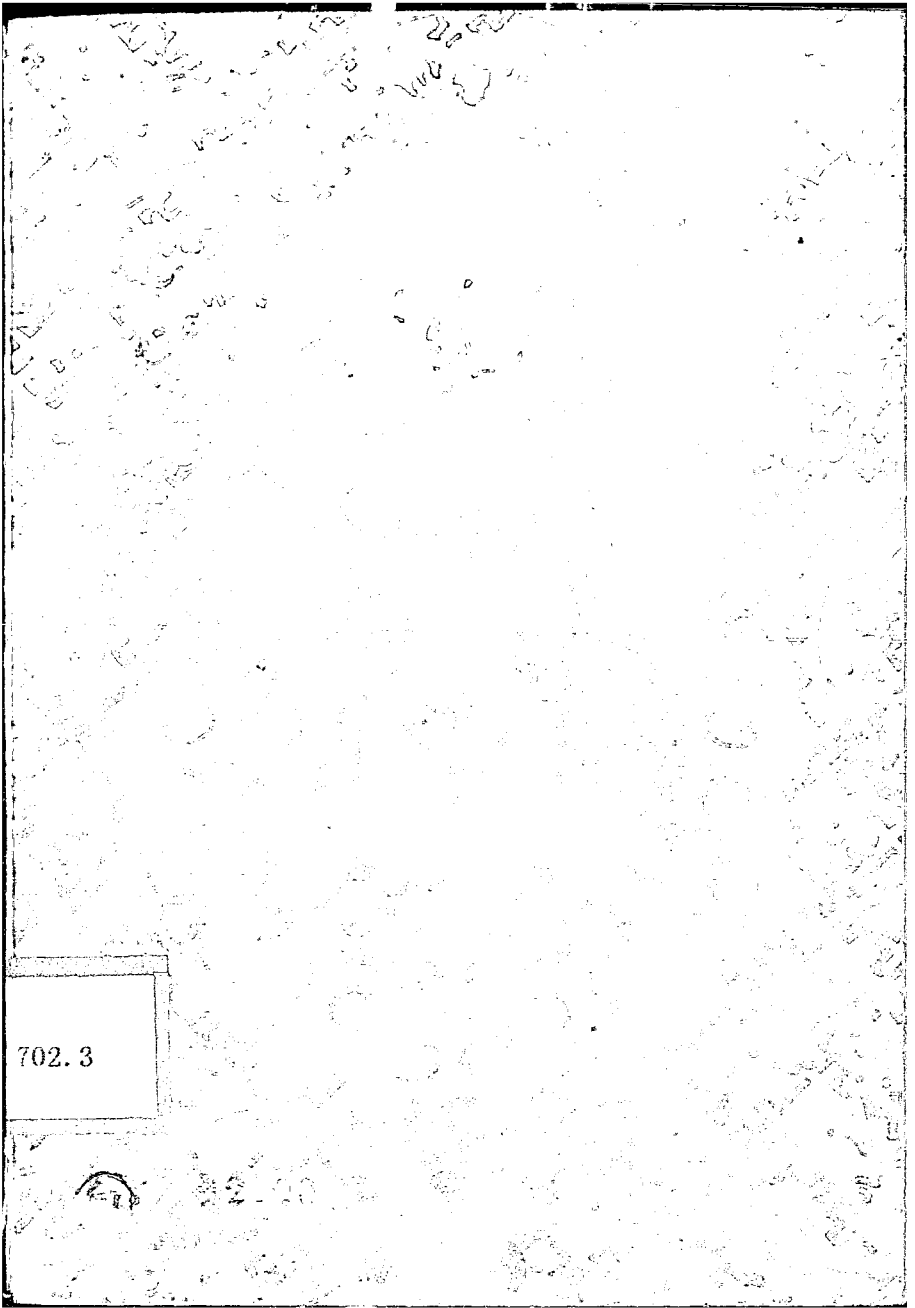
印刷所 東京市神田區美土代町十六番地 三秀舍

發行所 新京特別市大同大街二〇二號
滿日文化協會

電話 ② 三七四六番

領布取所 滿洲事案內所

新報 特設 新京 特別市 中央 通二 六
振替 口座 新報 中央 通二 六七



702.3